

# 2012年度事業報告書

## 1. 全体の報告(評価)

### 【成果】

#### ①会員の会としての再出発。事業・組織の変更に着手した（中長期計画の策定）。

長年の懸案であった中長期計画を策定した。10年後の社会は全世代で「おひとりさま社会」になる。地縁・血縁がなくなる**無縁社会**であり、その中でひとりで生きていても孤立せずつながりを再構築できる所として、総合性のあるNPOが必要になる。本会はそうした存在を目指すべき、と結論をだした。

そのために中期的には「会員のたすけあいの会」を形作ること、具体的には徐々に高齢化・おひとりさま化していく**現会員のための互助**（支部活動：身近なところでの顔見知り作り、コーディネート付きボランティア活動の推進、会員互助の成年後見構想、看取りの社会化等）とともに、**社会全体に希望を作る**こと（フードバンク活動でのセーフティネット作り、総合相談支援センターでの個別のSOSの伴走型の対応）を目標とした。

年度途中から組織改革に着手し、会報の見直し、会員の集いの開催、寄付の機会の提供、会員限定ボランティアの企画、支部づくりのための環境整備など組織・事業の変更に取り組んだ。「事務局（宇都宮）主導から**会員中心へ**」と考えを大きく方向転換した年となった。

#### ②「個別SOSの解決」をはかる事業を統合し総合相談支援センターを開始した。

フードバンク宇都宮をはじめから、続々と生活困窮者が訪れ、また寄り添いホットラインからのSOSが続発してやってくるようになった。若者サポステからも生活困窮のため一緒に支援してほしい、との依頼も多くなった。こうした個別SOSの増加に対応するために総合相談支援センターを開設し、「SOSはなんでも相談してください」と、**相談支援していることを公表**ことにした。まだ、財源的な裏付けがなく、職員で対応するには限界があるものの、会員やNPOのネットワークにより問題を解決していくことができると考えている。可能なかぎり「困難を抱える人生」によりそう応援をしていく。国がおこなう同様事業の受託を検討している。

#### ③とちぎコミュニティ基金の強化やNPOのファンドレイザー育成により、寄付の意識を高めた

栃木県の「新たな公の担い手育成事業」を受託しとちぎコミュニティ基金の強化と、認定NPO法人を目指す団体に対するファンドレイザーの育成を行い、ファンドレイジングの実践と寄付意識の醸成に努めた。**寄付ハイク**では2011年7万円の寄付が、2012年度は39万円、**2013年は90万円**になった。「寄付をして社会貢献でき気分爽快、うれしい・楽しい」と感想をのべる参加者もたくさんおり、この2年間で寄付ハイクを社会貢献イベントとしてブランド化することができた。

また、本会内部でも職員・ボランティア・会員の寄付意識が高まり、年末年始募金では昨年度と比較して86万円も増加した。

### 【現状と課題】

#### ●事業種目、事業形態・組織の大変更(リストラ)に伴う財政の逼迫

中期計画の実現のために事業形態を変更させているが、これはすべてが寄付で賄うことは不可能でもある。国の生活支援戦略の事業委託などを考慮しつつ事業展開する必要があるが、初期投資として倉庫・人件費などランニングコストを予め負担せざるをえず、非常に苦しい財政運営となっている。

#### ●困窮者の増加とフードバンク事業による民間独自のセーフティネット構築の必要性

フードバンクは生活困窮者（世帯）支援のなかでもハブ的な役割があり、とても重要な事業であるが、経費の全額を寄付で、労力もボランティアで賄うため、需要と態勢整備が追いつかない状況になると予想される。

フードバンク運動は国に頼らない「自分たちで作るセーフティネット」としての意味合いがあり、「人生のやりなおし」の希望を作ることになる。自分もすぐに困窮者に転落してしまう危ない社会だということの認識のもと、職員以外の人に活動の輪を広げていく必要がある。

### ●次の大災害のための“構え”と知恵の継承

日本は災害が多い国である。しかし災害と向き合っていない社会でもある。毎年起こる水害に対して同じ失敗を繰り返すことが当たり前でもある。社会の中に知恵の継承がされていない。知恵は民間と国・自治体がもつものであるが、行政は常設で災害対応する部署はなく、民間も(本会も含む)一部のNPOが経験を伝えるのみである。防災意識がほとんどない栃木県において広域災害の救援・復興支援の住民・ボランティアの知恵の継承が課題である。

### ●個別SOSに対応できるボランティアの広範な育成が必要

これから総合相談支援センターの開設にともない個別のSOSケースが増えてくる。これらに対応するためには個人の人生に寄り添うタイプの支援形態が求められ、有給職員ではない人材が必要である。個別SOSに対応するボランティアの育成が必要とされる。

### ●「たすけあいの会」としての会員のボランティア活動活性化と、地域拠点(支部)の立ち上げが必要

社会の課題を解決するとともに、本会の会員が困ったときにはお互い様でたすけあえる状況をつくる必要がある。事務局に一極集中していた会員との関係性を、会員同士、会員と役員、会員と地域のNPOなど網の目のようなつながり「ネット」にしていく。そのなかから問題を解決する関係性(ボランティアしあう)ができることを構想している。そのためにはもっと身近な場所に拠点(支部)が必要であろう。

## 2.事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1. ボランティア活動と民間非営利団体に関する啓発普及、研修、助言、調査研究、相談援助、および情報資料の収集・提供	【ボランティア・センター】 (1) ボランティア・コーディネーション事業	随時	法人事務所	職員2人	3件。県民、NPO	99
	①社会的包摂支援センター「地域センター 栃木」の運営支援	日月除く 3/11～3/31	法人事務所	職員6人、ボラ10人	同センターの拠点貸出、相談者の紹介等	
	(2)一芸ボランティア事業	随時	法人事務所	職員1人	25件。県民、福祉施設、NPO等。	共通経費に含
	(3)講師派遣事業	随時	県内247回、他大阪、茨城、福島	職員3人、役員3人	県民など約20,160人	173
2. 生活困窮者の支援	(4)総合相談支援センターの運営	随時	法人事務所	職員5人、ボランティア11人	33件、主に県民	2,958
	【フードバンク宇都宮】 (1)フードバンク事業 ①フードバンク活動 ②大田原支部の設置と真岡集荷場の確保 ③フードドライブの実施	毎日	本会事務所、大田原、真岡	職員1人、理事3人、ボラ20人		
	(3)ホームレス支援 ①夜回り ②生活保護受給の支援 ③居場所の提供	毎週水曜日、随時	本会事務所、宇都宮市内	職員1人、ボランティア5人	夜回り：47回・236人 食事会：5回・40人 炊出し：2回135人 生保：4人	
3. 若年無業者、障害者の就労支援および自立支援	(1)若者未来基金	毎日、会議14回	県内、ジョブカフェ内、法人事務所		県内の若年無業者とその支援者	490
4. 災害救援および復興支援	(1)東日本大震災の復興支援活動 ①ボラ拠点の運営 ②まけないぞう事業 ③まけないぞうキャラバン ④復興支援プログラムの開発 ⑤家屋再建支援の検討 ⑥山元・南相馬の支援 ⑦白河・矢吹の仮設住宅支援 ⑧とちぎ暮らし応援会の運営	随時	法人事務所、宮城県気仙沼、山元町、福島県白河等	職員2人、ボラ962人	被災地住民	18,001
	⑨イベント「311から2年・復興の担い手の今」	3/31、	宇都宮大学・学生会館	職員4人、ボラ30人	県民180人	
	(2)救援・復興支援活動 ①益子竜巻被害 ②九州北部豪雨 ③京都府・宇治水害	①：5/6 ②：7/3 ③：8/14	①栃木・益子町、②大分・日田市、③京都・宇治市	職員2人、ボラ26人	被災地住民	
	(2)啓発・普及活動 ①講師派遣 ②ネットワーク・会議 ③定例会議	随時	県内、東京、福島、宮城、法人事務所	職員3人、ボラ10人	県内NPO、県民	
5. 民間非営利団体の活動資金の援助事業	(3)とちぎVネット災害救援ボランティア基金 「復興支援サポート助成」	随時	法人事務所	職員1人	助成金：①とちぎ暮らし応援会200万円、空飛ぶモニョンゴロ村100万円	3,000
	【とちぎコミュニティファンドの運営】 (1)メインファンドの運営	随時	法人事務所	職員2人、実委	県内NP031団体	23
	①寄付ハイクの実施	5/18、	法人事務所、栃木市	職員3人、実委5人	県内NP016団体、参加91人	
	(2)冠ファンド「花王ハートポケット倶楽部(地域助成)」事業	8-2月：審査 12/12、 3/10	法人事務所、ぼぼら、くらら	職員2人、実委5人	県内NP06団体に総額49万円助成。	
	(3)冠ファンド「とちぎゆめ基金」事業	実施せず				
(4)とちぎ強化事業(新たな公の担い手支援事業)	毎日	法人事務所	職員4人	県内NP0法人31団体	3,692	
6. 民間非営利団体の育成事業	【とちぎコミュニティファンドの運営】 (1)NPO育成事業	随時	法人事務所	職員2人	県内のNPO法人等	9,711
	①認定NPO法人になろう！キャンペーン事業(新たな公の担い手支援事業) ②NPO法人会計基準の普及	毎日	法人事務所、公開講座4回、内部研修5回	職員3人	県内認定NPO法人3団体およびキャンペーン参加NPO13団体	
	(2)NPOに関する相談・協働事業 ①SAVE JAPAN ②委員の委嘱	5/25、7/21	国会・議員会館	職員1人	全国の認定NPO法人等	

	(3) N P O に対する事務所スペースの貸出し、備品・機器貸出	随時	法人事務所	職員1人	備品貸出5回、会議利用1回	29
1. ボランティア活動と民間非営利団体に関する啓発普及、研修、助言、調査研究、相談援助、および情報資料の収集・提供	(4) コーヒーサロン事業	3回 10/6、	法人事務所	職員1人	県民23人、本会情報誌の読者(1200通)	6
	(5) 「月刊・ボランティア情報」の発行事業(A4判16ページ、1300部)	毎月(年10回)	法人事務所	職員2人、ボランティア5人	会員690人、県内NPO、福祉施設・社協等600団体	2,401
	(6) 新聞情報収集・データベース化事業 ①原稿執筆	毎週火曜日 (年50回)	法人事務所	ボランティア3人、職員1人	県民、情報誌読者、市民活動リーダー等	共通経費を含む
	(7) 震災がつなぐ全国ネットワークへの加盟、運営	随時(災害時)、会議4回	東京、仙台、気仙沼	職員3、ボランティア1	国民、被災地住民、災害救援を行なう全国のNPO	
	(8) 「全国民間ボランティア・市民活動推進者企画戦略会議」の運営	2012/6/1-17、他実行委員会3回	岩手県大槌・花巻、東京	職員1人、参加は職員3、役員1、ボランティア1	全国の民間ボランティア・NPO支援センター役職員30人	共通経費を含む
7. 共通事業費	上記事業に関わる共通事業費					190
8. 管理費	上記事業に関わる管理費					9,171

51,013

## (2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1. その他の事業	物品販売	随時	本会事務所等	職員1人	NPO、県民等10人(団体)	67



# 事業報告 A.【ボランティアセンター】

## (1)ボランティア・コーディネーション事業 (ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業)

「ボランティアしたい」活動希望者に活動の場を紹介するとともに、「ボランティアの応援求む」ニーズに対応するためボランティアの需給調整をおこなった。困難ケースは相談・援助をし、解決を図った。年度途中から、個別SOSを解決する部門を独立させ「総合相談支援センター」を立ち上げ、一般に実施を公開した。

近年の相談件数から考えると「ボランティアしたい」人より、「ボランティアの応援求む」「SOS対応」の件数が多く、ボランティア・コーディネーション事業も「ボランティアとともに実施するSOS対応事業」へと重点(視点)を変える時期でもあるだろう。

(したい、その他)●①DVシェルターを立ち上げたい(対応:青木) ③レクリエーション指導者を探してほしい(対応:青木) ③10月/Nさん・生保女性・宇都宮、何かVしたい(対応:矢野・菊池)

## (2)総合相談支援センターの運営 (生活困窮者の支援)

年度途中から「総合相談支援センター」を開設した。ボランティアセンターでのSOS対応の相談やフードバンク宇都宮への相談、とちぎ若者サポートステーション、社会的包摂支援センターからの相談をまとめて、個別に応援する必要が出たことが大きな理由である。

市民活動の仲介機能にだけ純化しても実際の社会問題は解決しない。本会が発足当時から行ってきた「個別のSOSに同行支援する方法」をとることを全面的に公開して実施することにした。ボランティアの個別性・柔軟性を最大限に活用することがこれからの地域福祉推進に必要な能力と考える。

また、今期も厚生労働省「社会的包摂ワンストップ相談支援事業」を実施している同センター・栃木支部の運営支援をした。栃木支部では年間5700件の電話相談に対し、30人のスタッフで対応した。そのうち緊急の支援の必要があるものについては本会のネットワークを使って同行支援をおこなった。継続支援はのべ40回となった。

相談は様々なものがあり複合的な問題が多く、ほとんどは既存の関係機関・サービスとかかわっているものの、縦割り、地域割、本人の能力の不全などの弊害により、各種サービスが使えないことが課題である。同行支援(人生の伴走支援)はその点でもっとも必要とされる支援方式である。

以下は相談支援の内容である。継続支援も多いため受付日は当期以前のケースもある。

名	年・性別	受付日	相談の種類	内容	対応	対応者	支援状況
1	U 40 男	2010/8/7	身体障害・知的障害・困窮	知的障害がある妹と2人暮らし。母は認知症で入院。生活費は妹の障害者年金と母の年金。本人は交通事故の後遺症で身体障害手帳保持(脳脊髄液減少症的な症状があり、常に体が痛いと訴える)。無職。金銭管理と判断能力に欠け、食料がなくなるたびにフードバンク(以下FB)に支援を求める。	フードバンク(以下FB)で食料支援。生活改善のため訪問し、助言。金銭管理方法と、住環境の悪いアパートの引越しの提案と実践を支援。	山田、菊池、青木	支援継続中
2	O 15 男	2011/3/1	身体障害	筋ジストロフィー患者、自力移動できず。中学校では電動車いすで移動。高校では介助者ないので週1回授業中の付き添いボラがほしい。家族だけでは大変	ボランティア・プログラムを作成し各方面に周知、一般ボラも募集し、学校と顔合わせ、ボラ説明会を実施。2011-2012年度は1名ずつ活動したが、2013年はボラいなくなり、家族で実施中。	菊池、渡辺	支援継続中
3	T 48 女	2011/10/1	外国人・困窮	40代女性(パキスタン)+子ども2人。夫のDVで逃げ来日。難民申請し足利で暮らすも、日本語できず、知り合い仕事もなく、食品、衣類、布団等の支援要請。東京の難民支援NPOから紹介されて電話相談。	訪問し、FB食品を提供。生活支援のため英語ができる足利の会員、TILL等外国人支援関係者を紹介、生活相談にあたってもらう。市外国語能力を生かした就労支援を行う。	石川、矢野	支援完了
4	U 30 男	2012/1/12	困窮	沖縄出身、福島県で派遣で仕事をすも震災で宇都宮市へ自主避難。仕事に就いたが、預金がなく給料支給日までお金がない。	フードバンクから食品を提供。炊飯器などの家電を無償で貸与した。ガスの加入保障金を分割払いにしてもらった。ほぼ毎月給料日前になるとお金を借りに来る。	徳山、大泉	支援継続中

5	B	40 男	2012 /5/8	困窮	仕事にはついてはいるが、収入が少ないため米の支援を要請。奥さんと娘の3人暮らしだが奥さんが統合失調症。	毎月、精米をFBに取りに来る。その時に世間話を少々行う。	徳山、大泉	支援継続中
6	I	30 男	2012 /5/9	病気・失業	リユーマチで働けず失職。お金ない。ガス止められ、家賃滞納。職業訓練校に行くまでの1カ月間の間、食べ物がほしい。	FBから食品を届ける(3回)、同時に、福祉事務所を通じて住宅資金貸付の手続きを支援した。その後就職支援をし、派遣で働いている。	徳山、原田	支援完了
7	J	43 男	2012 /5/10	DV、暴力団	仕事を紹介してくれたところが暴力団と知り、逃げている。実家で父と兄弟からDVを受けていたので家にも戻れない、お金がない。今後の自分の生活を立てなおしたい。	本会事務所に2泊し、その間に宇都宮から栃木市に移住。生保受給の支援をした。母もDVを受けていたことが判明したので母と暮らすようにした。継続して就労支援をおこなったが、内縁の女性が自殺したことから、うつ症状を発症し通院中。	徳山、原田	支援継続中
8	不明	不明 女	2012 /6/5	路上生活者	大阪出身 食べ物がないので支援してほしい。名前年齢もおしえず(自称70歳)	十数回食料を提供したが、問題解決とならないので、現在シェルターを準備し家屋での生活をを進める。しかし、本人が納得しないので継続的に説得中。	徳山、大泉	支援完了支援申し出待ち
9	Z	32 男	2012 /6/29	精神障害	障害者年金(2級)で生活。妹と2人暮らし、生活は別々。足の筋肉が萎えて歩行にも痛みあり。月1回かかりつけ医に通院時も付添い必要。パニック障害、閉所恐怖症あり。声が出ない、歩けないので通院の付添い支援を求めてきた。	市の障害福祉課、かかりつけ医、地域生活相談支援センターと協議し、ヘルパー派遣の必要性を認めてもらったが、できる事業所がない状態。Vネットの会員で近隣に住むヘルパー経験者に継続的な支援(生活習慣の改善、生活動作の改善等)を依頼。	山田、仁平	支援継続中
10	T	47 男	2012 /7/4	路上生活者	横浜市で生活していたが、3.11の震災をきっかけにボランティアに行った。資金が切れて宇都宮で路上生活者になった。精神疾患。	路上生活の継続は、生命に危険があると判断し、生活保護につなげ社会復帰のプロセスとして本会でボランティア(FB倉庫整理等)をすることにする。	徳山、大泉	支援継続中
11	G	30 女	2012 /9/30	困窮・DV	Emailで支援依頼。福島県から自主避難して家族4人でアパートで暮らすも、夫の給料が不安定なので困窮している。	FBで食品を自宅へ配送。DV、等の疑いあり。児童相談所も関わっている。とちぎ暮らし応援会に繋ぎ、訪問対象にもらった。本会ボランティアも訪問するようにした。	徳山、菊池、門馬	とちぎ暮らし応援会に引継ぐ
12	O	64 女	2012 /10/3	精神疾患	生保受給、憂鬱、外にでたくない。死ぬ前に何か世の中のためにしたい。おまわりさんが来て、ボランティアセンター(Vネット)を紹介してくれた。	来所し、Vネットのできるボランティアを紹介。2、3回来たが現れなくなり電話で声かけするも定着せず。	菊池、矢野	支援終了、様子見
13	T	16 女	2012 /11/7	生活困窮・未成年	中卒、無職。父死亡、母いない。祖母(80)の年金と生保で暮らしているが、お金の使い方が荒く、電気、電話、ガス止められている。祖母糖尿病で入院予定。	FB食品の提供。若者サポステと連絡をとり、生活保護課に同行支援し、CWが家庭訪問現状把握。現物支給の対象となること、児相にも連絡を入れる。サポステ責任者が後見人となり資金管理する。現在は高校に入学。	山田、早川、徳山、中野	支援完了
14	B	30 男	2012 /11/15	異性関係	出産を12月に控え、日本人男性の胎児認知を求め相談。本人はオーバーステイ。日本人男性は認知の条件にお金は出さない、今後一切関係なしとしてきた。出産費用、生活の場がないため、支援を求める。	福祉事務所に相談し、福島県女性のための相談センターへ入所し、無事出産した。入国管理事務所に連絡済のため、今後のことはセンターに託す。	山田	支援完了
15	C	40 男	2012 /11/17	困窮	他NPOからの支援要請。母との二人暮らし、本人は無職で母のパートの給料だけが収入。持家なので生活保護対象外となり困窮した。	食品を茨城県城里へ届ける。話をしたところ生活保護の話が進んでいるので単発支援とした。	徳山	支援完了
16	N	60 男	2012 /12/1	困窮	派遣切りにあい、仕事なく、コンビニであった女性からVネットのことを聞きやってきました。「生保は受けたくない、仕事を紹介してほしい」とのこと。元ホームレスSさんと話していただき、今後について相談した。	栃木のNPOのシェルターに宿泊し、その間に仕事を紹介した。その後住み込みで働くことになった。	青木、矢野、大泉	支援完了
17	O	32 男	2012 /12/6	求職	派遣切りで失業。少々の蓄えがあったが、お金を盗まれた。8年ぶりに実家に戻ったが、父親が死んでいて家もなくなっていた。ハロワークから紹介されてきた。	就業する意欲はあったので、生活する場所を確保する意味で生活保護につなげた。その後、若者サポートステーションにつなぎ就労支援をしている。	徳山、大泉、中野	支援継続中
18	J	30 男	2012 /12/15	困窮	家賃滞納等があり、CWの指示を無視したため生活保護が打ち切られ、困窮した。大家からAP退去求められている。	FB食品を提供し関係構築。APを探し、引っ越しの支援。その後就労支援を実施中。	中野、大泉、原田	支援継続中

19	T	60 女	2012 /12/ 19	困窮	福島からの自主避難者。一人暮らし年金受給。福島の病院に通院している。また東京にいる息子も給料少なく送りしており、家計を圧迫。とちぎ暮らし応援会よりFB食品支援の要請。	食品をとちぎ暮らし応援会の事務局の人と同行し届ける。	徳山	とちぎ暮らし応援会に支援を引き継ぐ
20	B	19 男	2012 /12/ 20	精神疾患・困窮	義父からの性暴力、母からの虐待を受け、家出、非行を起こす。教護院を退去後一人暮らし。精神疾患(対人恐怖、摂食障害)となり、事故で視力が極端に低下。働けず、家賃・水道・ガス・電気を止められた。若者サポステから支援要請があった。	若者サポステとともに同行支援。特に男性と接することができず、生保申請時同行し、女性保健師に訪問依頼。生保受給となり、滞納分を分割払いとした。時々訪問し、相談を受ける。今後、心療内科、眼科への受診を促す。自治会との関係改善のために支援要請。通院・生保支払い時の動向支援。	山田、滝沢	支援継続中
21	T	40 男	2012 /12/ 21	困窮	失業して収入がなく、生活保護の申請をしたが、手持ちの現金が300円しかない。	小口貸付金の申請の支援を同行支援する。落ち着いたら今後の生活設計を支援する。	徳山	支援継続中
22	J	45 男	2012 /12/ 23	路上生活者	若いころは、製本の仕事をしていて。その後いくつかの仕事を経て無職となり、生活保護を受給。その後一時的に解体の仕事をしたが、仕事を辞めて無収入となり、自動的にホームレスになった。年末炊き出しで相談を受ける	年末でも、生活保護を申請の同行支援した。現在仕事を探している。	徳山、大泉	支援継続中
23	L	39 男	2012 /12/ 26	困窮	派遣切りになり愛知から実家の北海道に帰る予定だが、派遣先の給料振込が予想より少なく、資金不足で、東京からは宇都宮まで徒歩で来たが力尽き支援を求めてきた。	FB事務所を簡易宿泊所として一泊させた。翌日当人の母から口座に金が振り込まれ、自力で実家に帰る。	徳山	支援完了
24	I	45 男	2012 /12/ 27	困窮	那須塩原市で失業して、生活困窮してHさんに支援を求める。当会に支援を求めてきたので対応する。	一時栃木市所シェルターに数日宿泊後、宇都宮市で生活保護につなげる。	大泉	支援完了
25	L	44 男	2012 /12/ 30	精神障害	父親から食べ物与えられない、暴力怖い等と訴え。母親要介護5で自宅で寝たきり。市の担当課ともつながっているが、思うようにいかない。	地元NPOの宿泊施設に緊急宿泊し、FB食品を提供。1泊だけするも、翌日自宅に戻る。担当課、本人、NPOで話し合う。自立したいができず、父親との関係が険悪化。考え方の改善とともに、家族全体への支援を継続。	徳山	支援継続中
26	L	61 女	2013 /1/5	DV	夫からのDV、娘の家に避難するが追ってくるので、車の中で寝ている。パルティも紹介されたがシェルターは外出禁止で仕事ができないのでその後連絡とらず。警察、福祉事務所も相談している。	野木なのでNPOサバイバルネットライフにつなぐ。その後本人を支援中と連絡入る。	青木	支援完了
27	S	20 男	2013 /1/1 8	若者・仕事なし	なかなか仕事に就けない。事務職希望。ハローワークから紹介された。	若者サポステにつなぐ。担当者に電話し、約束をとりつける。ボランティアの種類や若者向きNPOも紹介した。	矢野	支援完了
28	I	26 男	2013 /1/2 5	困窮	愛媛出身の2人組。東北(岩手)に仕事があると友人に誘われたが、現地に行くにあてにしていた仕事が無かった。片道分の電車賃で行ったので所持金なくなる。2週間かけ、役所間の電車賃をもらい宇都宮まで来て市役所、社協で紹介され訪問した。	FBで食品を提供。東京の知り合いを頼るということで東武線の電車賃を貸した。念のために東京にホームレス支援NPOの住所、電話を教える。	徳山、大泉、矢野	支援完了
29	K	26 男	2013 /1/2 5	困窮	愛媛出身2人組のもう一人(うつ病)。東北(岩手)に仕事があると友人に誘われたが、現地に行くにあてにしていた仕事が無かった。片道分の電車賃で行ったので所持金なくなる。2週間かけ、役所間の電車賃をもらい宇都宮まで来て市役所、社協で紹介され訪問した。	FBで食品を提供。東京の知り合いを頼るということで東武線の電車賃を貸した。念のために東京にホームレス支援NPOの住所、電話を教える。	徳山、大泉、矢野	支援完了
30	K	62 男	2013 /2/1 9	路上生活者	兄弟の関係悪化のため、所持金もほとんどなしで家出をしてホームレス状態になった。	事務所に5日ほど宿泊させ、兄の了解をとって生活保護につなげる。	徳山、大泉	支援継続中
31	I	61 男	2013 /2/2 1	困窮	埼玉から那須塩原市に転居してきた。40万円ほどの借金もあり生活が厳しい状態。	特に現在のところは緊急的な支援は必要としないが、いざという時に相談に乗るといことで連絡待ちの状態。	徳山、矢野	支援連絡待ち
32	Y	54 女	2013 /3/2 1	困窮	電話にて支援要請。兄妹で2人暮らし、2人とも統合失調症。一時的に困窮してしまったので食品を提供していただきたい。	食品を那珂川町に直接配達。	徳山、山田	経過観察中
33	K	不明 /女	2013 /3/2 1	困窮	寄り添いホットラインから支援要請。困窮しているので食品支援をして欲しい。(中国人)	宇都宮の倉庫から福島県田村町まで距離があるので、宅配便を利用して食品を配達した。	徳山	支援完了
34	I	51 男	2013 /4/7	困窮	身体障害者年金を受給して生活。支給日前の半月前になると困窮してしまう。河川敷の草を採取して飢えをしんでいる。	食品を届け、最寄りのフードバンクを紹介したが再度支援要請をしてきた。本格的に現地の支援につなげることを検討中	徳山	支援継続中

35	I	86 男	2013 /4/2 5	困 窮	80代の老夫婦と50代長男の3人暮らし。息子の治療費が家計を圧迫している等の理由で困窮。	食品を届け、ヒアリングを行う。息子さんの医療費、通院費が負担になっているので関係のある市議員と生活保護の申請を考えてみることを進める。	徳山、 菊地	経過観 察中
36	K	76 男	2013 /5/9	困 窮	反貧困ネットワークからの支援要請。生保受給者、お金を紛失したので生活費がなくなってしまった。食品の支援を求めてきた。	精米、味噌、その他おかずになるものを自宅に届ける。	大泉	経過観 察中
37	Y	72 女	2013 /5/2 2	困 窮	5月の生活保護費を受給した日にひったくりの被害にあい生活費を盗まれ、困窮した。情報は国会議員秘書に聞いた	来月上旬には生活保護費が入るので、半月程度のお米等を提供する。今後月に一度は様子見を行い見守る。	徳山、 大泉	経過観 察中

### (3)一芸ボランティア事業 (ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業)

ボランティア活動したい人と福祉施設のボランティア求むのマッチングを促進するため、1年に1回～数回程度の単発ボランティアの機会を提供する「一芸ボランティア」を8年前から実施している。今年は**31件**の依頼に対応した。この事業は受入施設側の評価も高くボランティアの満足度も高いが、コーディネーションの運営経費捻出やコーディネーターの後任も課題である。

#### ■2012年度ボランティアコーディネート実績

	施設名 (依頼者)	ジャンル (活動者数)	調 整 日	ボラ実施日	コーディネート経過	感想等
1	デイサービス センター「つ るた」	ケーナと尺八 の演奏&歌 (2人)	2/16	4/11(水) 14:00-15:00	定例的な依頼	利用者30人、スタッフ3人
2	宿郷北自治会	尺八の演奏(1 人)	2/18	5/19(土) 11:00-12:00	定例的な依頼	依頼者側の都合で食事をとりながらの演奏 でしたので、若干やりづら面もありまし た。利用者25人。
3	今泉ケアセン ター「そよ風」	ケーナと尺八 の演奏 (2人)	3/30	5/31(木) 14:00-15:00	定例的な依頼に基づくものです。	通い始めて3年位経ちますが、毎回利用者 さん達は楽しみにしています。次は2カ月 後という話をしますと、来月来てよって寂 しがられます。利用者24人。
4	デイサービス センター「つ るた」	ケーナの演奏 (1人)	4/11	6/12(火) 14:30-15:30	定例的な依頼に基づくものです。	一緒に楽しんでできました。利用者26人、ス タッフ4人。
5	デイサービス センター「つ るた」	ピアノの演奏 (1人)	5/13 6/7 6/14 6/21	6/26(水) 14:00-15:00	一芸ボラのSさんからの応援依頼。ピ アノを演奏してくれるボラを探して いるので対応してほしい。 四年前 に活動して好評だったMさんとKさん に依頼し調整。6/7 都合がつかないと 連絡をいただく。今回は諦め、Iさん に打診。6/14 お受けいただく。施設 に報告して終了。6/21 念のため明日 の確認をすると、明日はダメという回 答。急遽26日で調整し実施した。	初めての経験で緊張しましたが、お気に召 されたでしょうか?というボランティアさ んの感想でしたが、オープニングに演奏さ れた桜井の訣別という曲が流れましたら、 施設利用者のお年寄り達は涙、涙…でした。 船頭小唄や湖畔の宿、大阪しぐれ等など40 曲くらい演奏されました。利用者20人、ス タッフ5人。
6	清原デイサー ビス「あおぞ ら」	ケーナと尺八 の演奏(2人)	6/19	6/29(金) 14:00-15:00	一芸ボラのIさんからの依頼、一芸ボ ラの実績とする。	半年ぶりのボランティアでしたので、利用 者さん達の表情は多少硬かったのですが、 演奏が始まると、その表情が柔らかくなり、 楽しく活動できた。利用者32人、スタッフ 4人。
7	今泉ケアセン ター「そよ風」	ケーナと尺八 の演奏(2人)	5/31	7/6(火) 13:45-14:45	定例的な依頼	なんと今回は40人もの利用者さんが集合。 初めての利用者さんご夫妻が良かったと喜 ばれていました。
8	県教育センタ ー企画「学び の杜の夏休 み」	ケーナの実技 指導 (1人)	5/14	7/14(土) 10:00-15:00	グローバルグループ Yさんからの依 頼。 県総合教育センター企画「学 びの杜の夏休み」でアンデス地方のケ ーナの指導講座依頼。	初めて参加しましたが、小さな子どもたち がメインのイベントでしたので、騒々しい 会場でしたが、それなりに皆で楽しみまし た。80人位入場されました。
9	川田ふれあい デイサービス 「えがお」	ケーナと尺八 の演奏(2人)	7/18	7/24(火) 14:15-15:15	一芸ボラのIさんからの依頼、一芸ボ ラの実績とする。	利用者さん42人位いましたが、皆さん乗せ 上手でスタートから大盛り上がりでした。 一時間のボラでくたくたでした。 利用者 さん元気ですね。
10	小山市ふれあ い健康センタ ー	三味線の演奏 (10人)	7/3	7/26(木) 13:30-14:30	三味線を弾くボランティアの依頼を 受け、以前お願いしたNさんに確認し ご了解をいただく。施設へ報告して終 了。	三味線の演奏前に、腕の運動、指の運動を しながら数をかぞえ、途中抜かしてかぞえ て、何か変だぞ?何が変だ?と皆で考え たりしてボランティアと利用者さんとの距離 を縮めてから演奏されるなど、楽しい一時 間となりました。
11	鹿沼ふらっと ミニワールド	ケーナの演奏 (1人)	7/14	8/5(土) 11:00-14:00	グローバルグループ Yさんからの依 頼。	ペルーとブラジルの料理や踊りに触れあ う体験でした。ブラジルのカポエイラ踊りは

	カフェ					初めて見ました。種族の戦いをテーマにした踊りだそうです。その後アンデスのケーナを演奏しました。ケーナの演奏ではブラジルの踊りの皆さんも輪になって踊ったりし、音楽は国境がないことを改めて感じたボラでした。
12	あおぞらさん家	ケーナと尺八の演奏(2人)	6/29	8/18(土) 13:30-14:30	一芸ボラのIさんからの依頼、一芸ボラの実績とする。	ショートステイが中心の施設でしたので、時間をオーバーしたボラになりました。利用者さんは今までのボランティアの中で一番いいと言っていました。ありがたいです。利用者22人、スタッフ3人。
13	デイサービスセンター「つるた」	ケーナと尺八の演奏(2人)	6/12	8/21(火) 14:30-15:30	定例的な依頼	この施設はいつもたくさんの利用者さんが集われます。今回は初めて会場全体で合唱するような内容を実施してみました。利用者32人、スタッフ4人。
14	今泉ケアセンター「そよ風」	ケーナと尺八の演奏(2人)	7/6	9/12(水) 14:00-15:00	定例的な依頼	利用者32人、スタッフ4人。
15	川田ふれあいデイサービスセンター「えがお」	ケーナと尺八の演奏(2人)	7/24	9/27(木) 14:15-15:15	定例的な依頼	利用者45人、スタッフ6人。
16	デイサービスセンター「つるた」	ケーナと尺八の演奏(2人)	8/21	10/17(水) 14:30-15:30	定例的な依頼	利用者25人、スタッフ2人。
17	清原でデイサービス「あおぞら」	ケーナと尺八の演奏(2人)	10/17	10/23(火) 14:00-15:00	定例的な依頼	雨のせいか、利用者さんに活気がなかった。そのせいか私たちも気乗りしないボラになってしまいました。利用者39人。
18	あおぞらさん家	ケーナと尺八の演奏(2人)	8/18	11/15(木) 13:30-15:00	定例的な依頼	利用者30人、スタッフ4人。
19	今泉ケアセンター「そよ風」	ケーナと尺八の演奏(2人)	9/12	11/16(金) 13:45~15:00	定例的な依頼	利用者28人、スタッフ2人。
20	錦小学校	邦楽の授業講師(2人)	11/27	12/11(火) 8:30-13:30	日本の伝統芸能を学校授業で指導する宇都宮市の取り組みの一環。	児童60人参加。
21	デイサービスセンター「つるた」	ケーナと尺八の演奏(2人)	10/17	12/13(木) 14:30-15:30	定例的な依頼	利用者31人、スタッフ2人。
22	宿郷北自治会	尺八の演奏(1人)	10/26	12/15(土) 11:30-12:30	定例的な依頼	利用者27人
23	上戸祭小学校	邦楽の授業講師(2人)	10/5	12/19(水) 9:30-12:00	日本の伝統芸能を学校授業で指導する宇都宮市の取り組みの一環。一芸ボラの実績とする。	児童140人に尺八の指導をしました。会場が体育館で暖房もなく、あまり良い環境ではないので、模範演奏もいまいちでした。
24	デイサービス「にしはら」	マジックとケーナ、尺八の演奏(2人)	10/9	12/20(木) 14:00-15:00	定例的な依頼	利用者さん13人という小さなデイサービスでしたが、小さい分、和やかにできました。昨年もらした利用者さんから、大感激の握手をいただき、来年もきつと会おうと約束して帰還。利用者13人、スタッフ8人。
25	今泉ケアセンター「そよ風」	ケーナと尺八の演奏(2人)	12/13	1/9(水) 13:45-14:45	定例的な依頼	利用者31人、スタッフ2人。
26	鹿沼石川小学校	学校授業でのケーナ演奏と指導(1人)	1/23	2/4(月) 10:45-11:45	グローバルグループYさんからの依頼。	初めて手にしたケーナでしたが、直ぐに音が出た児童が4~5人も出たことにびっくりしました。児童30人
27	鹿沼津田小学校	学校授業でのケーナ演奏と指導(1人)	1/18	2/7(木) 10:45-11:45	グローバルグループYさんからの依頼。	初めて手にしたケーナでしたが、直ぐに音が出た児童が4~5人も出たことにびっくりしました。児童40人
28	今泉ケアセンター「そよ風」	ケーナと尺八演奏(2人)	1/9	2/14(木) 13:45-14:45	定例的な依頼	利用者39人、スタッフ2人。
29	デイサービスセンター「つるた」	ケーナと尺八演奏(2人)	12/13	2/21(木) 14:30-15:30	定例的な依頼	利用者31人、スタッフ2人。
30	鹿沼市北小学校	学校授業でのケーナ演奏と指導(1人)	2/15	2/26(火) 13:55-14:40	グローバルグループYさんからの依頼。	なんと6学年3クラスで90人を超える人数でしたので、十分に指導出来ませんでした。児童達は一生懸命でした。
31	デイサービス「星風会」	ケーナと尺八の演奏(2人)	1/21	3/14(木) 14:00-15:00	一芸ボラのIさんに依頼があり、一芸の実績とする。	前半は盛り上がりには欠けましたが、後半軍歌を演奏したら男性利用者さんたちがのってきて盛り上がりました。利用者さん30人、スタッフ4人。

#### (4)講師派遣事業 (ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業)

ボランティア活動、NPOの啓発普及のため役職員等を講師として派遣した。派遣は251回(聴講者数はのべ20160人)となり、で昨年とほぼ同じであった。講義はシルバー大学校が3校でのべ96日(午前午後で192

回)が多かった。他に大学、NPO支援センター、自治体、社協、NPO、自治会からの依頼があった。

講義内容としては、ボランティア論のほか、NPO論、災害関係があった。今また年初めてファンドレイジング(資金調達)についての講師依頼が3件あった。講師(矢野)に准認定ファンドレイザーの資格があることからの依頼でもある。

	月日	講座名(内容)	主催等	場所	派遣講師	聴講数(のべ)
1	4-7月	シルバー大(北校、南校、中央校2)=192回 ・ボランティアを始めよう(4回×6校) ・施設ボランティア実習発表(2回×6校) ・災害図上訓練、防災マップ作り(6回)×6校 ・自主研究(20回×6校)	栃木県健康福祉協会	矢板、宇都宮、栃木	矢野、中野	20160
2	4/24	宇大国際学部大学院・国際NPO起業論(4回)	宇都宮大学	宇都宮	矢野	32
3	6/11-13	災害講座(2回×3日)=6回 ①避難所とは ②HUG、③今後の災害 ④ボランティア・コーディネート、⑤災害救援・復興支援・受援力 ⑥家庭の防災、⑦災害のために何をすべきか	とちぎ市民活動推進センター+栃木青年会議所	栃木	矢野	180
4	6-2月	こぶしの会・編集会議アドバイザー(6回)	(社福)こぶしの会	上三川	矢野	36
5	9/19、11/21	ヘルパー講座、ボランティア実習オリエンテーション(2回)	介護労働安定センター		矢野・菊池	90
6	7/14-15	地域づくりリーダー研修「震災後の福島の地域づくり」(2日)	NPO法人苧麻クラブ	福島昭和村	矢野・塚本	20
7	11/8-2/17	シルバー大(北校、南校、中央校2)24回 ・ボランティアを始めよう(4回×6校)	栃木県健康福祉協会	矢板、栃木、宇都宮	矢野	220
8	7/3	小山市役所新人研修「ボランティア・市民活動・推進施策について」	小山市		矢野	50
9	8/24	ボランティア入門講座	とちぎセルフヘルプ情報支援センター	宇都宮	矢野	10
10	9/22	災害時のボランティア	日本防災士機構	さくら	矢野	90
11	9/24	NPOと市民活動	税理士会+ぼぼら	宇都宮	矢野	30
12	10/5	企業とNPOの対話集会Ⅱ「とちコミ」について	ぼぼら	宇都宮	矢野	40
13	10/12	「ファンドレイジング入門」講義	山梨県ボランティア協会	山梨・甲府	矢野	20
14	10/24	「NPOとは」日光のNPO3団体の合同職員研修	和音・ウェーブ・だいじょうぶ	日光	矢野	20
15	10/27	鹿沼福祉まつり前夜祭「災害時とボランティア」	鹿沼市社協	鹿沼	矢野	50
16	11/14	社協ヘルパー研修会「災害時のヘルパーどう動くか」	壬生町社協	壬生	矢野	30
17	12/23	今泉防災講座(青木、柴田、)、	今泉自治会	宇都宮	柴田、青木	
18	1/20	関西ファンドレイジング・フォーラム」パネリスト	大阪ボランティア協会	大阪	矢野	100
19	2/17	「地域防災とボランティア」(取手・矢野)	取手市	茨城・取手	矢野	50
20	3/18	「地域間格差とセーフティネット」シンポジスト	自治労・栃木県本部	大田原	矢野	250
21	3/23	「女性にやさしい避難所とは」避難所運営ゲーム	宇都宮市	宇都宮	矢野・青木	40

## 事業報告 B.【フードバンク宇都宮】

### (1)フードバンク事業 (生活困窮者の支援)

#### ①フードバンク活動

賞味・消費期限の切れていない食品を無償でいただき、賞味・消費期限内に福祉施設や困窮者へ食品を配るフードバンク活動は昨年度に引き続きフードバンク宇都宮の基幹的な活動項目である。

2012年度から倉庫をテーシンビル1階からとちぎボランティアネットワークの事務所がある共生ビル1階に移動し、フードバンク倉庫とフードバンク事務所機能を併設した。このことにより食品の受け渡しがスムーズになり、効率化が進んだ。更にとちぎコープの倉庫の一部をフードバンク倉庫に貸与していただき長期の保存が可能な食品専用に保管している。

東京のフードバンクの先進団体経由で、大手食品メーカーの食品等が定期的に入庫するようになり、まだ非力な存在ではあるが全国フードバンクのネットワークの一角を占めるようになった。

## ②大田原支部の設置と真岡集荷所の確保

フードバンクのネットワークを広げるために栃木県内に低コストで運営できるフードバンクの拠点を模索したところ、二見理事（現理事長）からフードバンクに協力しても良いという人を紹介していただき、フードバンクを大田原市で行う気運が高まった。大田原市と大田原市社会福祉協議会の協力もあって、約半年の準備期間を経て**フードバンク大田原支部が発足**した。ボランティアな5人のメンバーが中心となり現在活動中である。

真岡市においては、フードドライブ時の集荷場所として当会会員が家主である「**そらまめ食堂**」を提供していただいた。昨年夏からフードドライブの食品集荷所として機能している。

さくら市においては個人でフードバンクと提携しており、困窮者に食品を提供している。

## ③フードドライブの実施(3回)

各家庭を中心に食品の寄付を募るフードドライブを昨年5月、8月、12月に実施した。約300kgの食品が集まったが、食品の寄付フードドライブの新鮮味が薄れ、マスコミでは取り上げられにくい存在になってしまった。特に8月のような暑い時期は、必要以上の移動を避けるためフードドライブによる食品が集まりにくいということが判明した。小規模でもっときめ細やかなフードドライブの実施を計画するの必要を感じた。

食品の受付は1年を通して行っているのでも、1度でも食品をもってきていただいた人については、フードドライブ期間以外でも5人程度であるが、食品があると寄贈をしてくれるようになった。

## ④県外のフードバンクとのネットワーク構築(外部会議)

東京のセカンドハーベスト・ジャパンを中心とした全国フードバンクのネットワークが構築されていて、全国約30団体が全国から会議に集まる。まだ情報交換をする程度の関係であるが、近い将来具体的に団体間の食品のやり取りや、関東地区での地域分担等の計画が進められると予想される。その一例として宮城県のコープフードバンクから食品の受入をすでに実施している。

## ⑤県内の反貧困ネットワーク等の貧困者支援者との緩やかな連携

フードバンクで活動すると必然的に困窮者と接することが多くなる。彼らの問題は食べ物がないということも多くは問題の一つでしかないのでも、問題を解決する手法の一つとして多様な団体と活動することで貧困者を支援の手法を取り入れる必要があった。互いの得意分野で困窮者を支援するとともに、炊き出しを8月と12月に共同して宇都宮駅東公園で実施した。食材の提供や相談コーナーを受け持った。

## ⑥資金調達

寄付に関する活動については、寄付ハイクとフードバンクへの目的指定寄付であった。助成金はハートポケット倶楽部で助成金を取得したが、圧倒的に不十分な状態である。次年度にファンレイジングイベントを行って資金を調達するために1月に大阪で行われた「Run for Peace 大阪」や「ファンレイジング大会 2013」に参加し、運営実態を調査した。

●入出庫食品数：入庫 9,922kg / 出庫 9,323kg	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食品を配達した施設(団体) : 44 施設 / 75 回</li> <li>・ 個人に食品を提供した数 : 20 人(世帯) / 38 回</li> <li>・ ホームレス(路上困窮者)人数 : 不明 / 59 回</li> <li>・ 被災地の仮設住宅 : 5 か所 / 9 回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ とちぎ暮らし応援会県外避難者 : 人数不明 / 5 回</li> <li>・ 県外からの避難者 : 3 人(世帯) / 5 回</li> <li>・ 社会的包摂サポートセンターからの要請 : 4 人(世帯) / 4 回</li> </ul>

## (2)ホームレス(生活困窮者)の支援 (生活困窮者の支援)

### ①夜回り活動・食事会

フードバンク事業を始めると同時に付帯的に始めたホームレス支援の活動ではあったが、今期も夜回り活動、食事会を継続して実施した。夜回り活動は毎週水曜日 22 時からボランティアとともに実施した。

### ②生活保護受給の支援

夜回りでホームレスの人たちと関係性ができて判ったことは、自立的生活をしている人と自立的生活ができない人(または困難な人)に分かれていることであった。自立的生活が不可能な人については特別な支援が必

要となるので、人道上緊急避難的処置として生活保護申請の支援をすることにした。

反貧困ネットワークとちぎ等の生活困窮者を支援しているNPOと連携して、方法を伝授していただき不動産業者とも提供して、とりあえず制度を使って住居で生活できる体制をボランティアの尽力により作り上げた。

### ③居場所の提供

生活保護を受給していたり、困窮していたりする人の多くは社会の中で居場所が無い。共生ビル1階のフードバンク倉庫をその人たちの居場所として開放した。当事者たちが自然と集まるようになり、お互いに自分の過去を話すようになるなどセルフヘルプの場になり、彼らがつながり始め、新たな縁が生まれてきた。失いかけた社会性をここで取り戻そうという人が無意識に働いたのかもしれない。

ホームレスという言葉は単純に家がない（ハウズレス）ということではなくて、**血縁、地縁、社縁（帰属している縁）**などの多くの関係を失って**社会との関係性を失って孤立していること**であると実感した。

ここまで来てしまうと自力での社会復帰することは不可能に近い。誰かの支援が必ず必要である。

#### (課題)

最終的にはどのような支援にしても出口が必要になる。支援対象者に30代や40代の人がいることから自立をして社会復帰が可能であれば、就労支援等の活動も必要になる。

#### 夜回り

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	4	4	3	4	4	3	5	4	4	4	4	4	47
訪問先人数	16	24	15	32	28	21	20	16	16	16	16	16	236
訪問者	8	8	10	8	10	12	10	11	10	10	10	9	116

#### 食事会（5回実施）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	1	1	1		1		1						5
参加者	5	33	1		0		1						40

#### 困窮者対象野外炊出し（反貧困ネットワーク等と共同で実施：駅東公園）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数					1				1				2
参加者					55				80				135

#### 緊急で生活保護受給につなげた人（ホームレス状態でVネットに直接支援を求めた人のみ）

氏名（仮名）	年齢・性別	実施時期	原因
佐倉さん	40代・男性	8月	家庭不和
大田さん	30代・男性	12月	家庭不和、家族喪失
砂井さん	40代・男性	12月	失業
鞍馬さん	60代・男性	2月	兄弟不和による家出

## 事業報告 C.【若者自立支援】

### (1)若者未来基金の運営（若年無業者、障害者の就労支援及び自立支援）

年度途中から若者支援事業を改変して「若者未来基金」を創設した。若者サポートステーション事業が独立し別団体に移管したためである。

様々な悩みを抱えた若者や仕事に就くことが困難な若者に対して、総合的・段階的なサポートを行うために、とちぎボランティアネットワークに「若者未来基金」を設置し寄付を募る。寄付金の使途は、ユースアドバイザー



ザーの方々の活動費用や、若者の就業訓練の経費（奨励金）、また一般就労が困難な若者のための新たな仕事作りとした。

今期は若者未来基金から（一般社団）**栃木県若年者支援機構・しごとや**での就業訓練に参加している若者（のべ34人）に対し、訓練経費（奨励金）が支払われた。

## 事業報告 D.【災害ボランティア・オールとちぎ】

### (1)東日本大震災の救援・復興支援活動（災害救援および復興支援）

2012年度に被災地に行って活動したボランティアはのべ**962人**となった(下表)。多くは日帰りでの参加である。年度前半には個人宅の片づけ、庭・農地の復旧等と仮設住宅支援が並行して行われていたが、年度後半からは、相対的に仮設住宅支援や復興の交流プログラムが多くなってきた。また、地域的には宮城県山元町、福島県南相馬市、石巻など日帰りが可能でかつ現場的な作業のある地域にボランティアが多く集まった。年度後半からは県内や首都圏でのまけないぞう販売に力を入れるなど、継続的なつながりが作れる復興支援になっていった。

2012年度 月別ボランティア数(栃木からに現地に行った数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	活動内容
気仙沼	38	12	8	6	5	7	11	17	0	3	0	0	107	週末隊、足湯V・仮設訪問、ぞう交流会
山元	29	45	43	59	72	36	64	37	10	4	0	0	399	個人宅の庭、農地の瓦礫片づけ
石巻	40	34	0	0	0	0	6	5	14	6	14	25	144	生業再建支援(牡蠣養殖筏手伝い)
南相馬	16	23	23	17	26	15	30	16	18	8	0	0	192	個人宅の庭、農地の瓦礫片づけ
白河・矢吹	0	0	7	8	6	16	13	1	0	0	0	0	51	仮設住宅訪問(イベント、茶話会、ぞう交流会等)
いわき他	5	3	9	6	2	0	0	5	1	4	0	4	39	いわき:ぞう講習会、亘理・丸森:生業支援
他	0	18	0	0	0	0	0	0	0	4	8	0	30	益子竜巻18人、新潟雪下し12人
月計	128	135	90	96	111	74	124	81	43	29	22	29	962	

#### ①ボランティア拠点「キャンプ八郎衛門」の運営

岩手県一関市に日本財団 ROAD プロジェクトの支援により、岩手県一関市に「キャンプ八郎衛門」の開設ができた。今年度も職員配置して遠隔地からのボランティアへの便宜を図るために宿泊、活動情報の拠点としての運営を行った。**利用者は449人**となった。気仙沼での活動は、ROAD 足湯ボランティア（23回、のべ342人、足湯提供者461人）の受け入れのほか、本会会員のよる足湯ボランティア、折壁仮設住宅のお茶会「折カフェ」の開催、千厩仮設住宅等での「縁台づくり」などのプログラムを行った(7月まで実施)。

■気仙沼、福島、栃木での活動(プログラム)内容、回数

プログラム名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
足湯	5	5	6	5	2	1	1	5	2	0	2	2	36	ROAD、会員の足湯ボランティアによる気仙沼・一関の仮設住宅訪問回数
折カフェ	5	3	2	1	1	1	0	0	0	0	1	0	14	一関市室根地区折壁仮設住宅でのお茶会「折カフェ」実施回数
まけないぞう大使	2	2	2	2	2	2	1	2	1	1	1	1	19	気仙沼(唐桑・本吉・市内)からの「まけないぞう」の集荷・発送作業回数
縁台づくり	6	2	3	5									16	気仙沼、一関の仮設住宅での「縁台づくり」プログラム実施回数
会議	2	2	3	1	2	1	4	2	4	2	4	1	26	気仙沼での会議回数

イベント	4	3	5	3	1	4	0	2	0	1	1	23	気仙沼、一関の仮設住宅でのイベント回数(ぞう講習、アイス作り、夏祭等)
白河仮設	6	4	3	2	6		6	2	0		1	30	白河・矢吹の仮設住宅訪問回数
ボランティア人数	20	20	8	8	15	34	32	15	0			152	白河・矢吹のボランティア数(現場集合人数)
まけないぞう販売							2	3	3	1	1	3	まけないぞうの出張販売回数(主に栃木県内)
計	30	21	24	19	14	9	14	16	10	0	11	7	175

## ②まけないぞう事業(気仙沼・矢吹・いわき)

「まけないぞう」は全国から寄付いただいたタオルを被災者のお母さんたちが手縫いで「ぞう」の形にした壁掛けタオルである。これを本会が買い取って販売するもので、売上の25%が作り手の収入になる。生きがいやコミュニティづくり、生業の支援になっている。気仙沼ではぞうの作り手のお母さんたちが集まって「まけないぞう大使」と称して毎月集荷・出荷作業をおこなった。当期は**17,200頭、689万円**の売上となった。(同事業は気仙沼市、福島県矢吹町・いわき市で実施)

## ③「まけないぞうキャラバン」の実施

まけないぞうキャラバンを本会の会員の集いや県外、東京、神奈川で実施した。年度の後半からは、キャラバンのほか、イベント時の出張販売や大口での販売に力をいれた。この事業はタオルの寄贈や、ぞうの購入でつながった全国の支援者などにぞうの作り手のさんを招いてもらい、まけないぞうの販売促進と被災地の現状報告会を兼ねる交流・対話プログラムである。**県内4回、県外2回**の開催となった。

## ④復興支援プログラムの開発(宮城県・石巻市)

まけないぞう事業と同様に、被災地とつながれる商品やプログラムの開発につとめた。気仙沼の作り手さんは自分たちで企画してストラップを製作販売まで行うグループもあらわれた。年度後半になり**石巻・尾崎地区の牡蠣養殖漁業者との交流プログラム**が活性化し、一般公募と会員限定企画として現地訪問イベントを実施した。第1次産業は季節で内容が違い実施時期がかぎられるが今後も継続して実施していきたい。

<b>焼き牡蠣大会 (2回実施)</b>	1回：2013年1月20日(日)10:00-14:20 2回：2013年3月24日(日)10:00-13:30	参加/1回目 14人 2回目 17人
尾崎地区は、とちぎボランティアネットワークが家屋の泥出しや牡蠣養殖の尾崎牡蠣大会を企画いたしました。“牡蠣を食べて被災地支援”にご参加 津波被害で仮設住宅で暮らしている尾崎地区の皆さん。ライフラインの復 といわれています。それまで、屋間、漁に通ってくる人が工事業者だけでは を運んでもらいたいです。 参加費：3000円(おにぎり付き) 小・中学生 1000円※未就学児：無料 場所：石巻市尾崎(おのさき) 定員：20人(〆切り：3月16日)	(日程) 10:00 道の駅上品の郷トイレ前に集合 10:40 尾崎着 10:50 牡蠣稚貝付け作業もしくは牡蠣大会準備 12:00 焼き牡蠣大会開始 牡蠣は食べ放題 13:30 片付け後、尾崎出発 14:00 道の駅解散(予定) ※宇都宮より乗合で参加希望者は、ご相談ください。交通費別途。 ※道の駅から車で30分かかります(悪路)長面浦の先です。 ※洗浄作業は、汚れるのでカップやエプロン、手袋、長靴等を持 参下さい。	

## ⑤家屋の再建支援の検討(宮城県気仙沼、岩手県一関)

セルフビルドなどで「時間をかけずにすばやく自宅敷地に本設住宅を建てる方法」を提案・検討した「俄か大工養成塾」を計画したが、資金、人材の確保ができなかったことや、見通しの甘さが要因で、計画倒れに終わり実施できなかった。

## ⑥(継続)宮城県山元町、福島県南相馬市の個人宅の片付け、農業支援

宮城県山元町にもひきつづきボランティアチームがほぼ毎週末活動に行き、個人宅の家の家屋、庭、農地の片付け(ガレキ撤去)を行った。さらに**南相馬市**では、ほとんど片付けが進んでいない個人宅の瓦礫の撤去や片づけ、泥だしなどを行った。両市合わせて**約500人**が活動した。

## ⑦白河市・矢吹町の仮設住宅の生活支援事業

福島県白河・矢吹の4か所の仮設住宅の生活支援(見守り)活動を継続した。課題は、仮設住宅への入退去が繰り返されており住民での自治がなかなかできないことであった。また、現地に行くボランティアが固定され

しまったことも課題であり遠距離に継続的に支援することの難しさを感じた。

## ⑧「とちぎ暮らし応援会」の運営支援

福島からの原発等の避難者が県内に約 3000 人いる。そうした避難者の支援組織「とちぎ暮らし応援会」に運営委員を出すほか、特に個別の SOS ニーズに対応して運営協力した。困窮世帯にはフードバンク食品を提供するなどの支援をした。また「復興支援サポート助成」により 200 万円の助成をした。

## ⑨ 3.11 から 2 年[復興の担い手の今] の開催

東日本大震災の復興支援活動に取り組む県内外の団体とともに年度末に関連行事「3.11 から 2 年・復興の担い手の今」を開催した。講演、映画、交流ブースなどを設け、約 180 人の来場者があった。実施のために 1 月から 7 回の実行委員会を開催し企画を作り上げてきた。

<b>&lt;3.11 から 2 年&gt;共同●共創[復興の担い手のいま]</b> <b>3月31日(日)10:30-17:30 場所: 宇都宮大学・学生会館、無料</b>	<b>参加 180 人</b>
大震災から 2 年。もはや被災者と支援者という関係ではなく、混ざりあい、融合して「活動者」「復興の担い手」になってきました。地元で、栃木で、栃木と現地で、一緒に作り上げる活動と交流で生まれる希望を語ります。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●講演、ディスカッション、映画で、6 か所（6 分野）の活動者による取り組み・交流・希望の動きを紹介</li> <li>●被災地×活動者◎連続トーク：①宮城三陸、②福島二本松、③福島いわき、④栃木那須、⑤栃木県内避難者、⑥映画「逃げ遅れる人々ー東日本大震災と障害者」（10:40 と 15:00 の 2 回上映）</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●主催「3.11 から 2 年」実行委員会(事務局：とちぎボランティアネットワーク) ・とちぎYMCA (宇都宮) ・とちぎボランティアネットワーク(宇都宮) ・トチギ環境未来基地(益子)+みんぶく(いわき) ・チーム龍 JIN (那須烏山) ・とちぎ暮らし応援会(宇都宮) ・自立生活センターとちぎ(宇都宮) ・那須希望の砦(那須) ・福島県有機農業ネットワーク(二本松) ・宮城県・十三浜 漁業生産者組合 浜人(石巻)+チームかぬま(鹿沼) ・宇都宮大学 国際学部附属多文化公共圏センター(宇都宮) ・宇都宮大学生涯学習教育研究センター(宇都宮) ・宇都宮大学学生ボランティア支援室(宇都宮) ・空飛ぶモニョングロ村</li> </ul>	
<p><b>(メイン会場)</b></p> <p>■福島県有機農業ネットワーク…菅野正寿さん/「放射能に克つ農の営みーふくしまから希望の復興へ」と題して、有機農業の稲作はセシウムを吸収しない等の農家の実践報告を放射能実測データをもとにお話します。福島の米や野菜は本当に危険なのか？ 土と故郷を愛する農業者を支えなくてよいのか？ 報道では伝えられない現状を明らかにし、苦境にある福島の住民・農業者に寄り添いながら第一次産業の復興・脱原発社会を語っていただきます。</p> <p>■苗木 for いわき・プロジェクト…トチギ環境未来基地+みんぶく/津波でやられた海岸林の再生にマツの苗木の里親になって応援しようという活動。3/30 に行われる第 1 回植林も現地団体(みんぶく)と共に報告します。</p> <p>■那須を希望の砦に！…NPO 法人那須希望の砦/福島だけが原発被害にあっているわけではありません。栃木県北で、放射線計測活動やアドボカシー(政策提言)、除染活動も市民の力でおこなっている様子をお話いただきます。</p> <p>■県内避難者は今？…とちぎ暮らし応援会/栃木県内には 3000 人の県外(主に福島)からの避難者がいます。ご自身も避難者でありつつ、個別訪問・相談活動を続けている応援会スタッフに、避難生活の様子をお話いただきます。</p> <p>■宮城県・十三浜 漁業生産者組合 浜人+チームかぬま…2 年目の津波被災地の様子を栃木と宮城連合チームで報告します。漁業復興のためがんばってます。</p> <p>■映画上映：[逃げ遅れる人々ー東日本大震災と障害者ー]…自立生活センターとちぎ/宇都宮で自立生活をする障害者の NPO として、自力避難が困難な災害弱者の防災・減災を考えてもらう映画(DVD)を</p>	<p>一緒に見ます。一あの日から、私たちに何があったのか。マスメディアには断片的にしか取り上げられない、被災地の障害者のさまざまな現実に向かい。◎監督：飯田基晴・製作：東北関東大震災障害者救援本部・74 分・作品 URL <a href="http://www.j-il.jp/movie/">http://www.j-il.jp/movie/</a></p> <p><b>(そのほか)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とちぎ学生手仕事支援プロジェクト…復興支援商品の販売。栃木県内の大学生を中心に構成され、仮設住宅等で作られる「手仕事商品」の販売を中心に「買う」が支える復興支援をテーマに活動を展開中。</li> <li>・喫茶・交流コーナー…参加各団体の活動紹介ブースや、東北銘菓セット：200 円(寄付つき)もやっています。</li> <li>・ユーストリーム中継も予定。</li> </ul> <p><b>(その他の展示)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎とちぎYMCA (宇都宮)…「福島・那須地域の避難キャンプ」を宣伝します。</li> <li>◎とちぎボランティアネットワーク(宇都宮)…被災地のお母さんと復興支援商品「まけないぞう」を作りながらおしゃべりします。もちろん販売もします。</li> <li>◎チーム龍 JIN(那須烏山)…宮城・牡鹿との交流の様子をお知らせします。</li> <li>◎宇都宮大学 国際学部附属多文化公共圏センター ◎宇都宮大学生涯学習教育研究センター ◎宇都宮大学学生ボランティア支援室</li> <li>◎空飛ぶモニョングロ村(市貝)…リサイクル品回収。益金で子供の支援をします。</li> </ul>

## (2) 救援・復興支援事業 (災害救援および復興支援)

### ① 益子町竜巻被害

5 月 6 日に発生した益子町の竜巻被害について、復旧支援活動を行った。のべ 18 人のボランティアで個人宅の片づけを行ったほか、益子町の NPO トチギ環境未来基地もボランティアセンターに登録し活動した。

### ② 九州北部連続豪雨水害

7 月 3 日に発生した九州北部の水害で、震災がつなぐ全国ネットワークからの派遣要請に基づき、大分県日田市に本会役職員 2 人(青木、柴田理事)をコーディネーターとして派遣した。ボランティアセンター立ち上げなどの支援をした。3 日間のみであり、その後のコーディネーターの継続支援ができなかった。

### ③京都府・宇治市水害

8月14日に発生した京都府・宇治市の水害で、震災がつなぐ全国ネットワークからの派遣要請に基づき、職員、ボランティアを3人(矢野、斎藤V、米山V)派遣し、炭山地区ボランティアセンターの運営や現場作業を行った。

## (3)啓発・普及活動 (NPOとボランティアに関する啓発普及等事業)

### ①災害・防災に関する講師の派遣

避難所運営に関する講座に招かれることが多かった。HUG(避難所運営ゲーム)など、東日本大震災での教訓が、防災意識の改善に寄与したものと思われる。また1月から、障害者の当事者団体であるNPO法人自立生活センターとちぎとともに、災害時の障害者の避難についての勉強会を毎月実施している(3回実施)。

### ②ネットワーク・研修会・会議への参加

震災がつなぐ全国ネットワークの会議・講座の他に静岡県ボランティア協会が6年前から実施している「静岡県内外の災害ボランティアの広域図上訓練」に3人が参加した。国の会議としては内閣府「防災ボランティア活動検討会」に出席した。

5/13 震災がつなぐ全国ネットワーク会議(矢野)	11/2 震つな仮設支援連絡会
5/13 仮設支援連絡会(矢野)、5/13 震つな四役会(矢野)	11/10 震つな定例会(高知/矢野・柴田)
5/27 震つな・移動寺子屋「気仙沼・復興の知恵」(矢野,青木,小野)	11/11 震つな移動寺子屋(高知/矢野・柴田)
9/30 内閣府防災ボランティア検討会・三重全国ボラフェス(三重津/矢野)	3/2-3/静岡・広域図上訓練(静岡/矢野、菊池、君島)

### ③定例会議

オールとちぎ会議を年間で40回開催した。定例は毎週水曜日午後7時からで、夕食を一緒に作って食べてから会議にしている。一人200円以上のカンパで職員が交代で作る。

## (4)とちぎVネット災害救援ボランティア基金 (NPOの活動資金の援助事業)

主に国内で発生した自然災害などに際し、緊急救援ボランティア活動が必要な場合の初動の活動資金を援助する(P66「基金運用規定」による)。東日本大震災の寄付は**2,000,893円**となり、前期と合わせて**累計21,031,474円**の寄付となった。寄せられた寄付金をもとに栃木県内から今後1年以上復興支援を行うNPOに助成する「復興支援活動サポート助成事業」(P67「助成要綱」)をおこなった。(理事の推薦による応募、理事会の決定で助成、随時実施)。今期の助成は**とちぎ暮らし応援会(200万円)**と**空飛ぶモニョングロ村(100万円)**に合計300万円の助成をした。

## 事業報告 E.【とちぎコミュニティ基金(とちコミ)】

企業・市民がNPOを支えるための「資源循環の仕組み」と「NPO側の情報公開」を促進するため県内中間支援型NPO7団体による共同事業として「とちぎコミュニティ基金」の運営およびファンドレイジングを行った。5月にNPO春の合同寄付キャンペーン「寄付ハイク」を栃木市で行った。街歩きコースと田舎歩きコースとし市民から目立つようにした。結果的に**参加57人(寄付者総数119人)**、**390,450円**の寄付となり前年度の7万円からは飛躍的に増額した。なお2013年度の寄付ハイクも5月13日に実施しており、寄付総額は約90万円となった。下表はその経年変化である。ようやく寄付イベントが定着したと思われた快挙だった。

回	日時・場所	参加 NPO 数	参加数／寄付のみ数	寄付総額（内寄付のみ）
1	2009・6(日光・雨で中止)	18 団体	0／15	33,500 円(33,500 円)
2	2010・5(日光丸山)	20 団体	47／11	184,000 円(35,000 円)
3	2011・5(矢板・高原山)	6 団体	16／5	76,000 円(12,000 円)
5	2012・5(栃木 2 コース)	18 団体	91／28	390,450 円(77,000 円)
6	2013・5(栃木 3 コース)	15 団体	81／115	900,250 円(350,000 円)

冠基金は「花王ハートポケット倶楽部・地域助成」を今期も実施し、6 団体に**総額 49 万円**の助成をした。今年も「とちぎゆめ基金」と「メイン基金」の助成は中止した。

また、昨年度からの継続事業の「**とちぎコミュニティ基金運営強化事業**」を受託し、とちコミの運営強化を図った。ファンドレイジングの研修や助成事業の運営を通して、中間支援団体間・運営委員間の連携が進んだことも成果であった。

## ■とちぎコミュニティ基金とは

### 1. とちぎコミュニティ基金の仕組み

とちぎコミュニティ基金の仕組みは大きく、**寄付システム**と、**NPO情報公開・信用システム(NPO データバンク)**の2つがあります。原則として同基金が集めた寄付は、情報公開(NPO データバンクに登録)している団体にも助成します。

#### 【寄付システム】

寄付システムには2つの方法があります。(1) メイン基金(とちぎコミュニティ基金 本体助成)、(2) 冠(かんむり)基金です。

(1) **メイン基金(とちぎコミュニティ基金本体助成)**は「とちぎコミュニティファンドに直接に寄せられた皆様からの寄付金を合わせて、分野ごとに助成する仕組みです。助成する団体は原則公募方式とし、審査や選考も原則公開で行います。

(2) **冠(かんむり)基金**は企業や団体(個人)からの寄付で、特に分野やテーマを指定して応援したい場合、寄付者のお名前や、助成目的を冠した特別枠の助成基金を作ります(原則は毎年継続の大口寄付です)。助成する団体は原則公募方式で、審査や選考も原則公開で行います。また、寄せられた寄付金の中から20%~40%をとちコミ運営経費として使用します。

#### 【NPOデータバンク】

「市民活動団体の情報公開」は寄付くださる市民・企業の側と、NPO・市民活動団体側との信頼をつくり出すために不可欠のものです。この「NPOデータバンク」に登録された情報はホームページ(<http://tochikomi.canpan.info/>)で公開するほか、県内各地の中間支援団体で閲覧できるようにします。また、このとちぎコミュニティファンドからの寄付・寄贈品の助成を受けようとする団体は、「NPOデータバンク(CANPAN)」への登録が必須条件になります。「信用できる市民活動団体を自信をもって紹介すること」が目的です。現在17団体が登録している。

### 2. 運営

とちぎコミュニティ基金の運営は、趣旨に賛同した**中間支援団体6団体の共同運営(本会、とちぎ協働デザインリーグ、宇都宮市民まちづくり工房、コラボレ真岡、とちぎ市民活動推進センターくらら、かぬま市民活動広場ふらっと)**とし、団体の共同プログラムとします。会議は毎月1回行っています。

## (1)メイン基金の運営 (NPOの活動資金の援助事業)

メイン基金は本会内に「**とちぎコミュニティ基金特別会計**」を設けて認定NPO法人としての寄付控除を活かして運営する。冠基金とは違って、とちコミ運営委員会直営的にNPOに公募、配分できる資金として受けつける。財源をため一定額が集まったら実施する。

### ①「寄付ハイク」の実施

定期的にとちコミの存在を知らせ、NPO自身の寄付の努力を促すため「NPO春の合同寄付キャンペーン」寄付ハイクを実施した。とちコミ登録団体の中から参加団体を募り、チラシを作成。ホームページ、口コミで広報と寄付集めをした。今年度は栃木県委託事業の「とちコミ強化事業」の一環として実施した。**「寄付ハイク」の参加は91人、寄付総額は390,450円**であった(寄付内訳は下表のとおり)。なお本会・フードバンクは54,250円となった。

今期は山の中から街中にてでくるように企画し、栃木市で実施した。街歩きコースと田舎歩きコースの2つとし、各団体にも「歩かない人でも声をかけ、事前に寄付をあつめるようにする」などのノウハウを提供した。寄付イベントは団体の宣伝の催しであることも意識づけした。

■寄付ハイク応募要項(成果等は(3)とちコミ強化事業参照)

<b>寄付ハイク 歩きつづけて第4回！ 春のとちぎを歩いてイイことしよう。</b> <b>5/19 (土) 9-15時 栃木市</b> 主催：栃木県 企画運営：とちコミ		参加
栃木県にはたくさんのNPO（非営利団体）があります。貧困や引きこもり、障害者、環境などの社会問題を解決したり、より豊かな栃木県をつくるための活動をがんばっています。 寄付ハイクとは、ハイキングを楽しみながらそれらの活動を知り、支援しようというチャリティイベントです。新緑の太平山南山麓では運がよければ、スカイツリー・筑波山・富士山が見えるかも！蔵の街とちぎは、蔵の街かど映画祭開催中！寄付ハイクの醍醐味は、楽しみながら社会貢献できること。さあ、みんなで一緒に歩きましょう！  <b>春の大平山いなか歩きコース</b> …新緑の中、ゆるやかな登り坂・下り坂を3時間、約8Kmのコース。●JR大平下駅⇒大中寺⇒清水寺⇒かかしの里(昼食)⇒JR大平下駅(解散)  <b>蔵の街とちぎ散策コース</b> …小江戸の風情を楽しみ、よりみちしながら歩く3時間、約5Kmのコース。●栃木駅⇒巴波川沿いを幸来橋から蔵の街へ⇒例弊使街道⇒公園で昼食 ⇒栃木市駅前庁舎(解散)  <b>●ルール</b> ：①2つあるコースのどちらかを選んでハイキングを楽しみます。②昼食後、各NPO（非営利団体）の代表者が活動紹介を行います。③応援したい寄付先を決め、1,000円以上寄付します。		91人
<b>総額 390,450 円の内訳 (コース別)</b> ・山コース：115,450円 ・街コース：198,000円 ・寄付のみ：77,000円 <b>(団体別)</b> まごの手13,000円 サバイバルネット・ライフ17,000円 とちぎコミュニティ基金17,000円	とちぎコミュニティ基金17,000円 チャイルドラインとちぎ21,000円 とちぎユースサポーターズネットワーク17,700円 自由空間ポー17,000円 うりずん13,000円 宇都宮まちづくり市民工房8,000円 あるべき支援を考える会8,000円 海がめ9,000円	もうひとつの美術館30,000円 蔵の街たんぼぼの会23,000円 トチギ環境未来基地25,000円 だいじょうぶ46,000円 はが道100km徒歩の旅実行委員会4,000円 ま・わ・た30,000円 とちぎVネット54,250円 ウイメンズハウスとちぎ37,000円

## (2)冠ファンド「花王・ハートポケット倶楽部(地域助成)」事業 (NPOの活動資金の援助事業)

花王㈱の同助成金を活用しNPOへ助成金を贈る地域助成を行なった。第5回目の助成金配分である。とちコミの宣伝を兼ねる意味で「NPOデータバンク」への登録を必須とせず、簡易な方法での応募とした。

審査は12月12日の第1次審査で6団体を選考し、それらを、花王ハートポケット倶楽部の社員1700人の投票により3団体にしぼる方法とした。メイン助成は**20万円が1団体、10万円が2団体、サブ助成各団体3万円の総額49万円**である。応募は**12団体**だった。3月10日に「くららフェスタ」にて贈呈式をおこなった。

<b>栃木県内のNPO・市民活動団体を応援</b> <b>—2012年度 花王・ハートポケット倶楽部地域助成(栃木地区)— 【とちぎコミュニティファンド・冠ファンド助成】</b>	
花王㈱では社員有志による社会貢献寄付プログラム「ハートポケット倶楽部」を組織し、全国・地域のNPOを社員と企業で応援しています。今年、栃木事業場のハートポケット倶楽部が、栃木県全域の全ての分野で活動するNPOや市民活動団体から、「心温まる活動」「地域で必要とされる活動」を対象に助成します。	
<b>■ 1、助成内容</b> ・助成総額：49万円 ・助成団体数：6団体 ・助成金額/メイン助成：20万円＝1団体、10万円＝2団体 ・サブ助成：3万円＝3団体 ・1次選考(書類審査)を通過した団体のうち、2次選考にもれた3団体にサブ助成として各3万円	
<b>■ 2、選考までの流れ</b> ◎応募受付開始：10月1日 ◎応募用紙提出締切：11月20日必着 ◎一次選考：12月中旬。とちぎコミュニティファンド運営委員会により、二次選考の6団体を選出。 ◎二次選考(投票選考)：1月中旬。花王ハートポケット倶楽部に参加している社員に応募申請書を公開し、投票で採択団体を決定します。 ◎贈呈式・レセプション：3月10日。くららフェスタにて第1次審査通過団体においていただき、贈呈式・レセプションを行います。 ◎活動報告：助成金を使った様子を所定の書式で簡潔にご報告ください。	
<b>■ 3、応募団体の条件</b> ①営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに1年以上継続的に行っている栃木県内のNPO・市民活動団体・ボランティア団体(法人格の有無は問わない) ②昨年度「メイン助成」を受けた団体でないこと(1年お休みのあとの応募は可)。 ※とちぎコミュニティファンドの「NPOデータバンク(CANPAN)」への登録は、今年度は必須ではありません。	
<b>■ 4、応募・問い合わせ先</b> とちぎボランティアネットワーク「花王・ハートポケット倶楽部係」 栃木県宇都宮市埴田2-5-1 電話 028-622-0021 FAX028-623-6036 H P <a href="http://tochikomi.org/">http://tochikomi.org/</a>	
<b>選考結果</b>  <b>■メイン助成：サバイバルネット・ライフ(20万円)</b> <b>コモネットらくだーず、手仕事工房ら(各10万円)</b> <b>■サブ助成：あしかがごっこの会、なんとなくののび、LINK とちまる・とちおとめーず(各3万円)</b>	

### (3)冠ファンド「とちぎゆめ基金」事業 (NPOの活動資金の援助事業)

今年は実施しなかった。

### (4)とちぎコミュニティ基金(とちコミ)強化事業 (NPOの活動資金の援助事業)

本会と県内の中間支援団体の共同運営でとちコミを運営しているが、寄付の受け皿としての機能向上のためにはウェブサイトの再構築、情報データベースの更新などとともに事務局員の配置が必要であった。新し公共支援事業の委託金により運営強化をする事業として企画提案し、受託した。寄付ハイクの実施、NPOへのニーズ調査、ウェブサイトのリニューアルなどを行った。

#### 1、事業名：NPOへの寄付推進と寄付先NPOの信用保証を行うインターネットサイト強化事業(とちコミ強化事業)

#### 2、目的・コンセプト

「公」の担い手として注目を集めているNPOであるが、実際のところ、市民からの認知は進んでいない。市民の多くは社会の役に立つことをしたいと思っているにも関わらず、そうした市民の思いの受け皿となるべきNPOのことを良く知らないことから、ボランティアや寄付をするなどの社会参加が進んでいない。そうした市民の思いをNPOにつなぐ、寄付ポータルサイトを構築・運営し、寄付の機会を可視化し、寄付先NPOの情報開示による信用保証を行うことで、市民からNPOへの寄付を促し、寄付という形での市民の社会参加を進め、寄付の受け皿であるNPOの活動の発展に寄与することを目的とする。

#### 3、実施内容

市民からのNPOへの寄付を進め、その寄付先であるNPOの信用保証を行うためのインターネット上のサイトである「とちコミポータル(日本財団公益コミュニティサイトCANPAN内 <http://tochikomi.canpan.info/>)」をリニューアル・強化した。強化の重点項目は以下の3点である。

- ①市民からNPOへの寄付の機会を創出すること
- ②創出したまたは既存の寄付機会をインターネット上に公開、可視化すること
- ③寄付先であるNPOの情報開示を促し、信用保証を行うこと

#### (1) 寄付機会の創出

##### ①合同寄付キャンペーン、寄付イベントの開催

とちぎコミュニティ基金(とちぎコミュニティファンドから名称変更)の登録団体および、別事業「認定NPOになろう!キャンペーン」事業参加団体を中心に「NPO 合同寄付キャンペーン」を企画し、キャンペーン期間中の寄付イベントとして「寄付ハイク」を企画、2012年5月19日に実施した。

- ◆実施日：2012年5月19日(土)9:00~15:00
- ◆場 所：栃木市(栃木市街、太平山)
- ◆参加団体数：17団体

参加団体と一般参加者が、新緑の栃木市街と太平山の2コースに分かれて寄付ハイクを行った。蔵の街栃木と太平山の名勝旧跡を歩きながら、各団体が上り旗コスチュームやチランなどでアピール、昼食後に参加団体が1団体5分程度の活動のPRを行った後、参加者が自分の支援したい団体に寄付を行なった。一口100円単位で複数団体に寄付できるようにした。多い人は5~6団体に寄付を行なっていた。また、当日参加できない人でも、参加する人に寄付を託すことができるようにし、できるだけ多くの人々に「寄付」をする機会を提供した。

寄付ハイクは一般参加者へNPOの活動をアピールする機会であると同時にNPO同士が親睦や情報交換をする良い機会ともなった。NPO同士が良い意味で切磋琢磨しながらファンドレイジング力を養っていくために大変効果的なイベントだった。

##### ●NPO 合同寄付キャンペーン「寄付ハイク」参加団体/17団体

<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人 まごの手</li> <li>・認定NPO法人 サバイバルネット・ライフ</li> <li>・NPO 法人 チャイルドラインとちぎ</li> <li>・NPO 法人 とちぎユースサポーターズネットワーク</li> <li>・NPO 法人 自由空間ポー</li> <li>・NPO 法人 うりずん</li> <li>・NPO 法人 宇都宮まちづくり市民工房</li> <li>・認定NPO法人 とちぎボランティアネットワーク</li> <li>・あるべき支援を考える会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人 海がめ</li> <li>・NPO 法人 もうひとつの美術館</li> <li>・NPO 法人 蔵の街 たんぼの会</li> <li>・NPO 法人 トチギ環境未来基地</li> <li>・NPO 法人 だいじょうぶ</li> <li>・はが路100km 徒歩の旅実行委員会</li> <li>・NPO 法人 ま・わ・た</li> <li>・認定NPO法人 ウイメンズハウスとちぎ</li> </ul>
--	--

##### ●「寄付ハイク」の成果

市民からNPOへの寄付の機会を創出の機会として、NPO春の合同寄付キャンペーン「寄付ハイク2012」を実施した。参加17団体のうち、「認定NPO法人になろう!キャンペーン」の参加団体が11団体あり、これらの団体はファンドレイジングの知識・ノウハウを体系的にまなんでいることから寄付集めの意欲が高かった。前年と比較して寄付者数は6倍、寄付額も4.7倍となった。

- ・参加者数(寄付者数)：119人(前年実績：21人) ・寄付総額：390,450円(前年実績・76,000円)

**②とちぎコミュニティ基金によるファンドレイジング「年末年始 1000 円募金」の実施**

とちぎコミュニティ基金の周知を目的に、金額よりも人数を多く集めることを目標にして「とちぎコミュニティ基金」を運営する本会および各中間支援団体が年末年始の時期にとちぎコミュニティ基金本体のファンドレイジングを行った。(期間：2012年12月1日～2013年1月31日。寄付者数 60 人、寄付総額 197,000 円)

広範囲に支持を受けることを示すために、できるだけ多くの人々から広く薄く寄付を募るため、一人につき 1,000 円という金額を設定した。その結果、予想を超える寄付が集まり、比較的安価で限定された金額を提示すると賛同を得やすいことが立証された。この経験をファンドレイジングの効果的な一例として NPO に紹介した。

**(2) 寄付機会の可視化**

**①寄付ポータルサイトの構築**

寄付機会を創出し、チャリティイベント等の周知を行うための情報サイト（とちぎコミュニティ基金公式ホームページ）を、前年度にリニューアル、発展させた。今年度は週 1～2 回ほど継続して更新を行なっている。とくに「NPO の宝箱」の取材と情報更新を定期的に（月 2 回程度）行うことに努力した。

**②寄付機会の公開**

とちぎコミュニティ基金のホームページ上に寄付ハイクや、とちぎコミュニティ基金への寄付案内を掲載し、広く一般から寄付を募れるようなしくみを構築した。

**③寄付ポータルサイトの周知**

**ア、ポータルサイトの周知**

ポータルサイトを多くの人に見てもらうための取り組みを行った。サイトの作りを検索でみつけやすいものにし、「とちぎコミ」という検索ワードで簡単にアクセスできる事を同時に周知した。とちぎコミのパンフレットに URL や携帯電話からアクセスしやすい QR コードを記載した。また、Facebook や Twitter 等のソーシャルメディアと連携することで認知を広げる仕掛けも取り入れている。その結果、2 月公開当初は 1 日 1 人程度であったアクセス数が、3 月末で合計 433 人からのアクセスを受けるようになった。依然アクセスは多くないが、今後はイベント等とポータルサイトを連携させる仕組みを取り入れ、アクセス数を増やすとともに相乗効果を生む仕掛けとして育てていく。

イ、紹介パンフレットの作成および設置・配布

とちぎコミ紹介用三つ折りパンフレットを 10,000 部作成し、振込用紙を挟んでとちぎコミ運営団体を中心に設置、配布し宣伝に努めた。

**④アクセス増を促すコンテンツの拡充**

ウェブは情報発信の手段であるが、閲覧者が「能動的に見たくなる」しかけがないとアクセスは集まらない。そのため、ウェブコラム「NPO の宝箱」の掲載を開始した。一般に馴染みの薄い NPO という世界であるがゆえに、一般人にとって目新しく興味深い人や活動やニュースがある。それを面白おかしく伝えていこう、というものである。同時に、県内で活動する素晴らしい NPO の活動を紹介し、広く支援者を開拓していくという目的も込めている。前年度に 1 団体（もうひとつの美術館）、今年度は 13 団体のウェブコラムを「NPO の宝箱」に掲載した。

以下は「NPO の宝箱」の取材・更新記録である。

回	取材団体	取材・WEB 更新日
1	NPO 法人 もうひとつの美術館	2012 年 3 月 30 日
2	NPO 法人 栃木県車椅子の会	2012 年 4 月 24 日
3	NPO 法人 はばたき	2012 年 5 月 12 日
4	NPO 法人 チャレンジド・コミュニティ	2012 年 5 月 18 日
5	NPO 法人 ウェーブ	2012 年 5 月 25 日
6	NPO 法人 うりずん	2012 年 6 月 19 日
7	NPO 法人 まごの手	2012 年 6 月 26 日
8	はが路 100k m 徒歩の旅実行委員会	2012 年 7 月 11 日
9	NPO 法人 自由空間ポー	2012 年 7 月 18 日
10	NPO 法人 トチギ環境未来基地	2012 年 8 月 23 日
11	NPO 法人アーシャ=アジアの農民と歩む会	2012 年 12 月 1 日
12	NPO 法人 チャイルドラインとちぎ	2013 年 1 月 19 日
13	認定 NPO 法人 サバイバルネット・ライブ	2013 年 2 月 22 日
14	NPO 法人 だいじょうぶ	2013 年 3 月 5 日

**⑤NPO の資金・物品ニーズの調査**

とちぎコミに登録している NPO を中心に県内の 27 団体へ「エクセレント NPO の自己評価基準」のに基づき、市民性、社会変革性、組織安定性の 3 つの視点にたったアンケート調査を実施し、栃木県内の NPO の資金・物品ニーズの調査を行った。調査概要を WEB 上に添付公開した。

**■調査協力団体（27 団体）**

認定 NPO 法人 青少年の自立を支える会  
 認定 NPO 法人 サバイバルネット・ライブ  
 NPO 法人 うりずん  
 NPO 法人 スペシャルオリンピックス日本・栃木  
 認定 NPO 法人 とちぎボランティアネットワーク  
 認定 NPO 法人 ウィメンズハウスとちぎ  
 NPO 法人 チャイルドラインとちぎ  
 NPO 法人 ワーカーズ・コレクティブたすけいあい大地  
 NPO 法人 宇都宮まちづくり市民工房  
 NPO 法人 もうひとつの美術館  
 NPO 法人 那須フロンティア

NPO 法人 アーシャ=アジアの農民と歩む会  
 NPO 法人 プラネット  
 NPO 法人 チャレンジド・コミュニティ  
 NPO 法人 自由空間ポー  
 NPO 法人 ウェーブ  
 NPO 法人 だいじょうぶ  
 NPO 法人 トチギ環境未来基地  
 NPO 法人 蔵の街 たんぼの会  
 NPO 法人 栃木おやこ劇場  
 NPO 法人 渡良瀬エコビレッジ  
 NPO 法人 山本有三記念会  
 NPO 法人 まごの手



NPO 法人ゆいの里  
NPO 法人なすアニマルクラブ

NPO 法人みらい  
NPO 法人小山こども発達支援センターリズム園

### ⑥団体ホームページの作成支援

ホームページは幅広い人々に団体の活動紹介でき、ファンドレイジングにも大いにとても非常に効果的なツールとして企業や公益法人が積極的に取り入れている。一方、効果的なホームページの制作費は高価であり、財政基盤が脆弱な NPO 法人には導入が難しい。そこで、本会職員が比較的安価でありながら効果的なホームページの作成支援を行った。

#### ■支援対象団体

- ・ NPO 法人ウエーブ (2012 年 8 月から稼働)
- ・ NPO 法人サバイバルネット・ライフ (2012 年 12 月から稼働開始)
- ・ NPO 法人うりずん (2013 年度末から実施。現在進行中)

### (3) 寄付先の信用保証

とちコミ参加 NPO は、ポータルサイトの中で活動内容や決算等の情報公開を行なってもらい、その内容をとちコミがチェックし信頼性を担保する仕組み「とちコミ認証」を運用している。この参加団体を増やすための取り組みとして、様々な NPO への声かけ、ポータルサイトへの情報登録支援、別事業・認定 NPO になろうキャンペーン参加団体へのとちコミ参加要請等を行った。結果、9 団体が新規参加し、情報の公開を行った。

■新規参加団体	
NPO 法人 トチギ環境未来基地	NPO 法人 チャレンジド・コミュニティ
認定 NPO 法人 ウイメンズハウスとちぎ	NPO 法人 ウエーブ
認定 NPO 法人 サバイバルネット・ライフ	NPO 法人 栃木おやこ劇場
NPO 法人 うりずん	NPO 法人 KHJ とちぎベリー会
	NPO 法人 アーシャ=アジアの農民と歩む会

### ●CANPAN ペイメント導入団体

- ・ 認定 NPO 法人サバイバルネット・ライフ
- ・ NPO 法人だいじょうぶ

### 【実行体制】

#### (1) 運営団体名

とちぎコミュニティ基金運営委員会

#### (2) 運営委員

- ・ 運営委員長：陣内雄次 (NPO 法人宇都宮まちづくり市民工房)
- ・ 事務局：矢野正広 (NPO 法人とちぎボランティアネットワーク)
- (構成団体/担当者)
- ・ NPO 法人とちぎボランティアネットワーク…石川慎太郎、徳山篤、我妻英司
- ・ NPO 法人ハイジ…中村絹江
- ・ NPO 法人宇都宮まちづくり市民工房…岩井俊宗、安藤正知
- ・ とちぎ協働デザインリーグ…小林有見子、土屋友里
- ・ NPO 法人ま・わ・た…土崎雄祐、加藤千穂
- ・ かぬま市民活動広場ふらっと…町田英俊

### (3) 運営委員会

通常毎月 1 回運営委員会を開催している。以下にその委託事業に関する会議の開催状況を記載する。

運営委員会開催日・議題		
日付	主な議題	参加数
4 月 6 日	・ 寄付ハイクについて NPO アンケート調査方法について とちコミ認証団体の増加策について	9 人
4 月 20 日	・ 寄付ハイクについて NPO アンケート調査方法について NPO の宝箱について	8 人
5 月 18 日	・ 寄付ハイクの事前打合せ 目的別寄付について	10 人
6 月 15 日	・ 寄付ハイクの報告 (来年度に向け検討) とちコミの広報について	8 人
7 月 18 日	・ NPO の資金・物品ニーズの調査 (NPO アンケート調査) について とちコミの広報について	7 人
8 月 8 日	・ NPO アンケート調査方法について とちコミの広報について	6 人
9 月 19 日	・ NPO アンケート調査方法を検討 花王ハートポケット倶楽部助成について	8 人
10 月 24 日	・ NPO アンケート調査について 花王ハートポケット倶楽部助成について	7 人
11 月 21 日	・ 次年度寄付ハイクについて NPO アンケート調査について	9 人
12 月 19 日	・ とちコミのあり方とこれからの課題について とちコミ本体のファンドレイジングについて	11 人
1 月 23 日	・ 次年度の合同寄付キャンペーン NPO の資金・物品ニーズの調査について検討	7 人
2 月 15 日	・ 花王ハートポケット倶楽部贈呈式について NPO アンケート調査について	8 人
3 月 8 日	・ 花王ハートポケット倶楽部贈呈式について 次年度計画 NPO アンケート調査報告について検討	6 人

### 4 事業実施の成果

- ① 合同寄付キャンペーン「寄付ハイク」を実施したことで、NPO のファンドレイジングに対する意識を高め、寄付額・寄付者数の飛躍的向上があった。寄付をとおして社会貢献ができることを参加者には周知できた。
- ② 運営委員によるとちぎコミュニティ基金本体へのファンドレイジング (年末年始募金) を実施したことで、ファンドレイジングのノウハウや問題点を運営委員が理解し、県内 NPO に伝えていくための重要な動機づけとなった。
- ③ ポータルサイトをリニューアルしたことでアクセス数の増加、閲覧性の向上、団体のイメージ作りを行うことができた。

④ NPOアンケート調査を実施したことでNPOに対し「優れたNPOの評価」という「外からの視点」を理解していただきことができた。同時に訪問調査をしたことで、県内の中堅以上のNPOが直面する資金、物品、人材等のニーズを把握することができ、今後の支援につなげることができた。

⑤ 団体ホームページの製作支援を行ったことで支援団体ホームページの発信効果が飛躍的に向上することができた。

⑥ この事業を通じて、とちぎコミュニティ基金の基盤強化ができ、とちぎコミュニティ基金自体への寄付受入金額が増加した。東日本大震災もあったので災害分野での助成メニューもできた。その結果、資金仲介額も増え、助成金応募団体の数も増加した。ゆめ基金は次年度から助成金応募団体を募る予定である。

■ とちぎコミュニティ基金寄付額(メインファンド、ゆめ基金)

■ 資金仲介額 (花王ハートポケットクラブ地域助成、復興支援サポート助成)

年度(寄付)	寄付受入金額(件数)	備考
22年度	460,574円(—)	
23年度	539,966円(16件)	
24年度	810,874円(84件)	
年度(資金仲介)	助成(仲介)金額	(応募団体数/助成団体数)
22年度	490,000円	6団体に助成(応募23団体)
23年度	2,990,000円	7団体に助成(応募13団体)
24年度	3,490,000円	8団体に助成(応募23団体)

※メインファンドはとちぎ自体への寄付であり、一定の金額を貯めた後NPOへの公募・助成とする。

※ゆめ基金、花王地域助成、復興支援サポート助成は「冠基金」であり、冠の寄付者による「とちぎ」への預託により、公募助成する。「とちぎ」へ寄付頂きストックし助成するものや、選考のみ「とちぎ」が行うものがあり、寄付金が直接選考受賞団体へ寄付されるものなどがある。資金仲介額はその数字を表したものである。

## 事業報告 F.【NPO活動推進センター】

### (1)NPOの研修事業 (NPOの育成事業)

#### ①「認定NPO法人になろう！キャンペーン事業」の実施

認定NPO法人の設立要件が緩和されたことに関連して県内に認定NPO法人になるチャレンジを促すとともに各団体にファンドレイザーを養成し、同時に一般市民に対し寄付金の税制優遇(認定NPO法人への寄付の所得控除など)を新聞広告等で周知する事業を企画提案し、受託した。15団体とともに毎月1回の内部研修会、寄付イベントの実施などを行ない、各団体の寄付金の増額と認定NPO法人化を目指した。

2年間かけて実施した事業だったが、参加15団体のうち寄付額や支援者数の増加があったのは11団体、認定NPO法人となったのは4団体、仮認定や申請中が2団体などの成果があった。(詳細は以下報告書を参照)

また、関連事業として昨年引き続きとちぎコミュニティ基金強化事業を受託した(P28で報告)。

#### 認定NPO法人になろう！キャンペーン

##### 1. 目的・コンセプト

認定NPO法人制度が大幅に改正された。従来の総収入の10%が寄付金という「相対基準」に加えて、3000円×100人の寄付者が2年間あれば認定を取得できる「絶対値基準」が加わった。また2012年4月からは仮認定NPO制度も導入される。他に認定NPO法人への寄付者の税制優遇も税額控除方式が導入された。

こうした認定NPO法人の制度の理解・普及を一般に行なうことと、認定を取得したいNPO法人を募り、NPO法人→仮認定NPO→本認定NPOへと進むため、「1団体年間100人の寄付者」を集めることを目標にキャンペーンを行う。複数のNPO法人が認定NPO法人化にむけた共同行動を行うことで「新しい公共」と寄付行動の意義を深め、NPO法人と市民の結びつきを強める啓発普及の運動を行なう。

##### 2. 実施内容

##### (1)参加団体の追加募集

前年度には参加団体が本会を含め15団体であったが、オブザーバー参加3団体のうち1団体(NPO法人うりずん)が年度初めに参加し、合計16団体となった。本会を除いた15団体にはファンドレイザー補助金を支給した。以下は参加団体。

1 NPO法人もうひとつの美術館	9 NPO法人まごの手
2 NPO法人チャレンジド・コミュニティ	10 NPO法人ウェーブ
3 NPO法人宇都宮まちづくり市民工房	11 NPO法人栃木おやこ劇場
4 NPO法人蔵のまちたんぼの会	12 認定NPO法人青少年の自立を支える会
5 NPO法人トチギ環境未来基地	13 認定NPO法人ウィメンズハウスとちぎ
6 NPO法人自由空間ポー	14 認定NPO法人サバイバルネットライフ
7 NPO法人だいじょうぶ	15 NPO法人うりずん
8 NPO法人チャイルドラインとちぎ	16 認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク(本会)

・オブザーバー参加団体： NPO法人ま・わ・た

## (2) 内部研修の実施：各団体の認定 NPO 法人取得の計画づくりと準備

参加各団体のファンドレイジングの計画や認定 NPO 法人になろう！キャンペーン実行委員会としての一般公開講座の運営の協議を行った。また一部の内部研修を一般公開講座と兼ねて実施した。

回	日時/会場	内容	参加人数
1	2012年4月28日 ・会場：とちぎボランティアネットワーク事務所・3階会議室	①認定 NPO 法人になろう！キャンペーンの進め方の協議 ②寄付ハイク(5/13 実施予定)のファンドレイジングの機会の利用 ③各団体のファンドレイジングの近況報告と予定(企画)	17 団体 19 人
2	2012年5月26日 ・会場：とちぎ青少年センター・第3研修室	①寄付ハイク(5/13 実施)の「ファンドレイジング」のふりかえり ②とちぎ YMCA のファンドレイジング事例紹介「YMCA チャリティ・ラン」・講師：岡田孝司 ③認定 NPO 法人になろう！キャンペーン旗揚げイベントについて、新聞紙面買取広告についての協議	16 団体 19 人
3	2012年6月23日 13:00-15:00 ・会場：とちぎボランティア・NPO センター「ぼ・ぼ・ら」	①認定 NPO 法人になろう！キャンペーン旗揚げイベントの企画について	12 団体 14 人
4	2013年1月12日 14:00-16:00 ・会場：とちぎボランティアネットワーク事務所・3階会議室	①各団体のファンドレイジングの成果発表 ②事務連絡	13 団体 13 人
5	2013年2月16日 14:00-16:00 ・会場：とちぎボランティアネットワーク事務所・3階会議室	①各団体のファンドレイジングの成果と今後の各団体の予定 ②次年度以降の「認定 NPO 法人キャンペーン」の枠組みについて(協議) ③次年度の寄付キャンペーン(5/11 実施予定)を使つての各団体のファンドレイジングについて(意見交換)	15 団体 16 人

## (3) ファンドレイジングの実施

### ① 共同寄付イベント「寄付ハイク」の参加

キャンペーン参加団体の共同のファンドレイジングの機会として、NPO 春の合同寄付キャンペーン「寄付ハイク 2012」に参加した。参加 17 団体のうち、キャンペーン参加団体が 11 団体となった。前年と比較して参加者数は 6 倍、寄付額も 4.7 倍となった。

- ・参加者数(寄付者数)：119 人 (前年実績 21 人)
- ・寄付総額：390,450 円 (前年実績 76,000 円)

### ② 認定 NPO 法人になろう！キャンペーンの実施

・キャンペーン旗揚げシンポジウム(2 回)の実施、および公開講座兼内部講習会(2 回)を実施した。

回	日時/会場	内容	参加人数
1	2012年7月23日 13:00-15:00 ・会場：とちぎボランティア・NPO センター「ぼ・ぼ・ら」 タイトル：寄付連続セミナー第1回「ネット寄付の可能性」 【内部研修会と兼ねて実施】	<b>基調講演①「ネット寄付の可能性～インターネット使った寄付・最新動向～」</b> ・講師：高島友和さん(日本財団 CANPAN センター職員) ・CANPAN 内のクレジット寄付、助成データベース・CSR データベース、インターネットを使つた寄付の動向、ツイッター、ブログ、ジャストギビングなど寄付集めサイトの紹介と寄付を身近にする新たなファンドレイジングの手法について講演します。  講演②「そうは言っても本当に WEB は使えるの？」 ・講師：石川慎太郎(とちぎコミュニティ基金/本会職員) ・基調講演を受けて、NPO の実務者にとってどのように IT を使えるか、時間・人・もの・費用をどうつぎ込むべきかを考えます。経営資源に限界があるのが世の常、だからこそあなたの団体にとっての取り組みスタンスを見つけましょう。	40 人
2	2012年9月8日 13:30-15:30 寄付連続セミナー第2回「寄付金の半分を税金から引く!?～寄付優遇税制と認定 NPO 法人を通して創る未来社会～」& 「認定 NPO 法人になろう！キャンペーン旗揚げシンポジウム」 ・会場：とちぎボランティア・NPO センター「ぼ・ぼ・ら」	<b>①基調講演：「NPO を通して創る未来～神奈川子ども未来ファンドの取り組みから～」</b> ・講師：石田静子さん(認定 NPO 法人 神奈川子ども未来ファンド・事務局次長) ・神奈川県内の子ども・若者や子育てに関わる活動の応援の輪を広げる非営利の「市民基金」として、NPO とともに寄付を一緒に集めてきた 10 年をふりかえり、「寄付を通して市民が参加する」これからの社会づくりについてお話いただきます。  <b>②シンポジウム：「あなたにとって、社会にとって、NPO にとって、寄付優遇税制の意義と可能性を語る」&amp; 認定 NPO 法人(チャレンジ中も)一挙紹介！」</b> ●シンポジウム[前半]：「寄付金の 50% を還付するしくみ」がもたらす未来(シンポジスト) ◆星俊彦(認定 NPO 法人 青少年の自立を支える会) ◆仲村久代(認定 NPO 法人 サバイバルネット・ライフ) ◆徳山篤(認定 NPO 法人 とちぎボランティアネットワーク) ◆塚本竜也(NPO 法人トチギ環境未来基地)	53 人

		<p>◆高橋昭彦 (NPO法人 うりずん) ◆進行: 矢野正広(とちぎボランティアネットワーク/認定! キャンペーン)</p> <p><b>シンポジウム[後半]:「認定NPO&amp;チャレンジ中! 団体を一挙紹介」</b> (登場団体) ◆認定NPO法人 ウイメンズハウスとちぎ ◆NPO法人 まごの手 ◆NPO法人 宇都宮まちづくり市民工房 ◆NPO法人 蔵の街たんぼぼの会 ◆NPO法人 チャイルドラインとちぎ ◆NPO法人 自由空間ポー ◆NPO法人 もうひとつの美術館 ◆NPO法人 だいじょうぶ ◆NPO法人 チャレンジド・コミュニティ ◆NPO法人 ウェーブ ◆NPO法人 栃木おやおこ劇場</p>	
3	2012年11月17日 14:00-16:00 ・寄付連続講座第3回(特別講座)「30代からの遺言」基礎知識 ・会場: ぼ・ぼ・ら 【内部研修会と兼ねて実施】	<p><b>基調講演:「わかりやすく、気軽に聞ける遺言劇場」</b> ・講師: 安野光宣さん(安野法務事務所・一般社団フラッグ/行政書士) ◎相続問題の基礎知識(相続とは、法定相続人、財産の分け方、遺言がある場合) ◎こんな方には遺言が必要かも: 事例 ◎遺言書の基礎知識 ◎遺言書作成演習</p>	26人
4	2012年12月8日 13:30-15:30  寄付連続講座第4回「おひとり様社会」と寄付 ・会場: とちぎ男女共同参画センター「パーティ」	<p><b>①基調講演:「寄付とあなた…これからの社会~特定寄付信託と認定NPO法人~」</b> ・講師: 合田政生さん(信託銀行社員) 「信託会社を通じた相続財産の寄付」と題して法律改正で新たにできた特定寄付信託(生前からの相続財産の計画的寄付)についてお話いただきます。」</p> <p><b>②討論会:「おひとり様社会の現実と看取りの社会化」</b> ・家による介護から「介護の社会化」をすすめてきた20年。これからは“介護その後”をどう生きるか=死ぬかを考えなければなりません。日本人にとってのある意味のタブー、看取りと遺産の形見分けについて考えたいと思います。戦後の社会の変化、葬送の変化、死生観の変化など、“家”の解体後の“こころ”のよりどころと家機能の担保について議論したいと思います。認定NPO法人になろう! キャンペーン参加団体や地域で活動するボランティアで今後の社会を語ります。 ◎パネリスト: ◆芳賀マサ子(NPO法人 ウェーブ) ◆蓑田裕美子(NPO法人 まごの手) ◆塚本竜也(NPO法人 トチギ環境未来基地) ◆大野幹夫(とちぎVネット会員・自治会役員) ◆山中節子(とちぎVネット会員・元高齢者配食ボランティア) ◎司会: 矢野正広(認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク)</p>	27人

### ③新聞紙面買取による広告

新聞紙面の買い取りによる広告を10回掲載した。下野新聞では「認定NPO法人に対する寄付優遇税制」について広告を出した。栃木朝日には前述広告内容とともに「栃木県内の認定NPO法人6団体の取材記事」をタイアップ広告として掲載した。日付と掲載紙は以下のとおり。(広告内容は別添)

回	掲載日/体裁	掲載紙/発行数
1	8月29日/3面下段 185×170mm	下野新聞/316,972部 (2012/10月)
2	10月16日/3面下段 185×170mm	下野新聞/316,972部
3	11月14日/1面題字下 35×65mm、3面下段 185×170mm	下野新聞/316,972部
4	12月4日/3面下段 185×170mm	下野新聞/316,972部
5	1月25日/「青少年の自立を支える会」のタイアップ記事・広告 380×125mm	とちぎ朝日/192,980部
6	2月1日/「ウイメンズハウスとちぎ」のタイアップ記事・広告 380×125mm	とちぎ朝日/192,980部
7	2月8日/「とちぎボランティアネットワーク」タイアップ記事・広告 380×125mm	とちぎ朝日/192,980部
8	2月15日/「サバイバルネット・ライフ」のタイアップ記事・広告 380×125mm	とちぎ朝日/192,980部
9	2月22日/「チャイルドラインとちぎ」のタイアップ記事・広告 380×125mm	とちぎ朝日/192,980部
10	3月1日/「もうひとつの美術館」のタイアップ記事・広告 380×125mm	とちぎ朝日/192,980部

### ④タブロイド版「認定NPO法人になろう! キャンペーン」広報誌の発行

広告の他に、タブロイド版の広報誌を2万部発行し、各団体がそれぞれ自分の団体を広報するとともに、認定NPO法人制度や、認定NPO法人への寄付優遇税制の周知をおこなった。広報誌紙面はタイアップ広告での取材記事を転載した。

### 4 事業実施の成果

#### (1) 認定NPO法人取得団体

- ・認定NPO法人取得団体が期間中に2団体増加し、栃木県内で6団体となった。  
NPO法人もうひとつの美術館(認定日: 2013年1月8日)  
NPO法人チャイルドラインとちぎ(認定日: 2013年1月8日)
- ・認定NPO法人、仮認定NPO法人申請中の団体は以下のとおり。  
NPO法人宇都宮まちづくり市民工房(2013年3月・認定NPO法人申請)  
NPO法人まごの手(2013年2月・仮認定NPO法人申請)

この他にヒアリングでは、6月の総会後に認定や仮認定の申請するところが複数団体あった。寄付額の他に役員や会費等の改正にともなう

定款の変更など各種書類の整備も求められるため、認定申請に時間がかかっているものと思われる。

**(2) 寄付者(支援者)の獲得**

下表は各団体の寄付受入額、寄付件数、会員数を年度ごとに示したものである。団体名の後の( )内は寄付の傾向を評価した。

**ウィメンズハウスとちぎ (不明)**

年度	寄付額 (円)
22年度	1,748,693
23年度	2,663,613
24年度	1,588,580

**ウエーブ (増加)**

年度	寄付額(寄付+賛助)	寄付件数 (件)	賛助会員数(口)
22年度	593,097	45	72
23年度	430,632	45	74
24年度	764,585	55	106

**うりずん (増加)**

年度	寄付額 (円)	寄付件数 (件)	会員数 (人)
23年度	2,904,831	104	184
24年度	9,421,072	351	461

**だいじょうぶ(増加)**

年度	寄付額 (円)	寄付件数 (件)	会員数 (人)
23年度	874,746	25	108
24年度	910,117	201	137

**蔵の街 たんぼの会 (不明)**

年度	寄付額 (円)	寄付件数 (件)	会員数 (人)
23年度	512,713	15	116
24年度	151,840	170	121

**チャイルドラインとちぎ (増加)**

年度	寄付額 (円)	寄付件数 (件)
23年度	540,000	36
24年度	808,000	80

**チャレンジド・コミュニティ(増加)**

年度	寄付額 (円)	寄付件数 (件)	会員数 (人)
23年度	204,000	10	204
24年度	254,432	7	183

**トチギ環境未来基地(増加)**

年度	寄付	会員数
23年度	946,690	26
24年度	1,149,660	31

**まごの手(不明)**

年度	寄付額 (円)	寄付件数 (件)	会員数 (人)
23年度	742,297	63	51人
24年度	227,981	64	107人

**もうひとつの美術館 (増加)**

年度	寄付額 (円)	寄付件数 (件)	会員数 (人)
22年度	262,850	18	155
23年度	1,175,519	258	283
24年度	1,172,017	175	303

**宇都宮まちづくり市民工房(減少?)**

年度	寄付額(寄付+賛助)	件数	会員数
2010年度	1,005,841	8	57
2011年度	710,646	25	55
2012年度	501,687	38	50

**自由空間ポー (増加)**

年度	寄付額 (円)	寄付件数 (件)	会員数 (人)
22年度	48,800	3	36人
23年度	27,180	23	38人

※決算期が9月のため24年度出ず

**青少年の自立を支える会(増加)**

年度	寄付額 (円)	寄付件数 (件)	会員数 (人)
----	---------	----------	---------

平成 23 年度	7,146,546	262 件	390 人
平成 24 年度	8,401,638	282 件	389 人

#### とちぎボランティアネットワーク(増加)

年度	寄付額(円)	寄付件数(件)	会員数(人)
2010 年度	11,489,640	680	609
2011 年度	29,559,987	1,021	679
2012 年度	8,813,642	733	661

※2010 年度は災害「寄付」が 600 万円、2011 年度は 1300 万円あった。

#### 栃木おやこ劇場(増加)

年度	寄付額(円)	寄付件数(件)
23 年度	0	0
24 年度	297,000	99

#### サバイバルネット・ライフ(増加)

年度	寄付額(円)	寄付件数(件)	会員数(人)
22 年度	2,025,739	—	151
23 年度	2,269,574	—	144
24 年度	2,148,800	—	168

各団体がそれぞれに寄付集めの努力をしていることが伺える。総額の減少もあるが、前年度大口寄付が来た場合には、次年度努力しているにもかかわらず減少していることもある。寄付件数の増減等や会員の拡大傾向など総合的に見ていく必要がある。そうした傾向を勘案すると、増加：12 団体、減少：1 団体、横ばい：1 団体、減少か増加か不明：2 団体となった。増加傾向の団体が多いことから、事業の直接的な成果が表れたと言えよう。

一方で、ファンドレイジングには、支援者を増やしていくことが単発寄付になり、さらに継続寄付、大口寄付につながっている。その意味で「会員や支援者が増えた」と答えた団体も多く、これらが今後の寄付獲得の芽生えとなるだろう。

こうした寄付・支援者の増加という結果が出たのは、自らの団体の行動とともにキャンペーン等での他団体との共同行動が相乗効果を生んだものと思われる。

## ②「NPO 法人会計基準」の普及

2011 年の新・認定 NPO 法人制度成立とともに「NPO 法人会計基準」内閣府の「NPO 法人設立の手引き」に正式に採用されることになった。年度末になり本会とソリマチ(株)の共催事業として「NPO 法人会計基準・実践講座」を企画し、次期の 2013 年 4 月 17 日に実施した。参加は 25 人であった(次年度事業報告に掲載)。

## (2)NPO に関する相談・協働事業 (NPO の育成事業)

NGO/NPO の活動推進のため、市民活動団体と協働して講座等の企画実施、イベントの協力、検討会や研究会の設置と協力、提言書の作成、基金の預託などをおこない、他の NGO/NPO 等からの相談を受け、課題の解決を図る事業が、徐々に認定 NPO 法人の支援に特化していくことに力点を変えている。また、資金支援もファンドレイジングを活性化するためとちぎコミュニティ基金を通じた支援を行った。

### ①SAVEJAPAN プロジェクトの共同運営

SAVEJAPAN プロジェクトは、(株)損保ジャパンが行っている社会貢献活動の一つで、環境を保全(生き物が住みやすい環境づくり)をするプロジェクトである。損保ジャパンと日本 NPO センターが中心になり全国 47 都道府県で実施されており、栃木県では本会と NPO 法人オオタカ保護基金で実施した。

プロジェクトのテーマは、絶滅危惧種である猛禽類の鳥サシバの飛来数が市貝町で日本屈指であること、同時にサシバが繁殖する環境が耕作放棄地が増えることで失われていく可能性が高いことから、「サシバの里の保全活動」に取り組むことにした。場所は市貝町文谷にある耕作放棄地になった谷津田で実施した。

年度内に 3 回実施した。6 月 9 日と 10 月 6 日に豊かな生物や植物の自然観察会と草刈等の軽作業を行い、12 月 15 日にサシバと人間が共生することにより豊かな地域づくりに取り組むヒントとするシンポジウムを(市貝町役場多目的ホール)で行った。

参加人数(プロジェクトの参加目標は年間 100 人)

回	実施日	参加人数	実施内容
1	6 月 9 日	19 人	自然観察会・保全作業
2	10 月 6 日	23 人	自然観察会・保全作業
3	12 月 15 日	60 人	シンポジウム
	合計	102	

### (成果と課題)

プロジェクト実施の成果は、市貝町役場の町おこしとオオタカ保護基金で進めてきたサシバの里保全活動が

合致し本格的にサシバの里市貝町の町おこしが本格的に動き始まったことである。サシバの住める環境は、餌になる他の生物も豊富に生息しなければならないので、サシバの生息する環境を守ることは地域全体の自然環境を守り、最後には人間の生活をする場所を守るという意義の深いものであることを実感した。

課題はまだ市貝町に住む多くの人たちがサシバのことには関心が薄いので、住民に広く伝えていく活動が次年度の課題となった。

## ②委員の委嘱などでの運営協力

各種委員に委嘱される等で会議、研修、講座の選考等に協力した。年度末になって会議が増えた。

11/22NPO法人会計基準協議会(矢野・東京)、2/20(水)JVCC実行委員会(矢野、安藤よ、二見・小山)、2/28・3/14:首都直下型地震・広域災害ボランティア委員会(矢野/東京ボランティア・市民活動センター)

## (3)NPOに対する事務所スペースの貸出、備品・機器貸出事業 (NPOの育成事業)

事務所を置く余裕のないNPOに対し、机1つ分のスペースを貸出し、活動拠点の応援をした。またコピー機・輪転機・紙折り機等の貸出をおこないNPOへの便宜を図った。徐々に独自事務所をもつ団体も増え、スペース貸しを行うNPO支援センターも増えたので事業の見直しが必要であろう

■貸出・利用備品：輪転印刷機(有料)、紙折り機、ビデオプロジェクター、パソコンプロジェクター

## (4)コーヒーサロン事業 (ボランティア活動とNPOに関する事業)

県内のNPO、ボランティアのリーダーを招き、顔の見えるネットワーク作りと他分野の団体の活動紹介をすることで、県内の市民活動の活動推進を図った。身近なスゴイ人・面白い人を紹介するいわば「耳学問の場」である。今年度は2回のサロンを行った。またサロンの内容は「月刊ボランティア情報」紙上に掲載した。

日時	講義名・内容	話し手	参加数	掲載号
8/10	ポーっとしてられる場所	本郷 秀崇…NPO法人自由空間ポー 理事長	7人	194号
10/25	薬物依存からの回復-回復支援男女の違い	栗坪千明・栃原夕子…栃木ダルク	8人	197号

## (5)『とちぎVネット・月刊ボランティア情報』の発行事業 (ボランティアとNPOに関する事業)

V活動・市民活動の啓発、普及、推進のため『月刊V情報』を毎月1300部(年10回)発行した。会員のほか、県内NPO法人、教育委員会、社会福祉協議会、福祉施設等へ無料配布し、県内の市民活動の情報を提供した。職員、ボランティアによる取材、執筆を行い、担当職員1人による印刷とボランティア2～3人による製本・発送で成り立っている。

年度末からはかねてからの課題であった情報紙の編集方針、内容、発行体制、頻度のすべてを見直し、2013年度当初の200号からはリニューアルした隔月刊の会員向け機関紙とした。

月	号	特集記事	月	号	特集記事
4月	190	報告/311から1年被災地のいまとこれから	10月	195	座談会/震災・原発避難者の「とちぎ暮らし」
5月	191	サロン再録/変わる社会的養護	11月	196	特集/フードバンク
6月	192	特集/フードバンク	12月	197	サロン再録/薬物依存からの回復・男女の違い
7-8月	193	緊急座談会/生活保護	1-2月	198	2013新春アンケート
9月	194	サロン再録/自由空間ポー	3-4月	199	News/フードバンク県北・大田原支部

## (6)新聞情報収集・データベース化 (ボランティア活動とNPOに関する事業)

V活動、市民活動の情報を提供するため、新聞3紙から記事を要約しデータベース化するとともに、記事のダイジェストを『月刊V情報』にも掲載した。ボランティア2人の毎週の切り抜きにより実施した。(新聞切り抜き隊：大野幹夫、鈴木和子)

昨年度と一転してマスコミからの取材はほとんどなかった。

### ①原稿の執筆

本会が実施する事業について、新聞・学会雑誌等からの原稿依頼に対し役職員が執筆、寄稿・投稿した。

回	月日	「タイトル」掲載紙・出版社名	執筆者
1	2012/5/31	・寄り添いからつながりを。震災がつなぐ全国ネットワーク×日本財団ROADプロジェクト報告書 P17「縁よる支援」、P41「とちぎから2万人ボランティア」	矢野正広

## (7)震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)への加盟、運営 (ボランティアとNPOに関する事業)

災害時の全国的なボランティアネットワークを構築するため「震災がつなぐ全国ネットワーク(略称=震つな)」へ加盟し、職員を同ネットワークの事務局長として業務にあたらせた。今期も東日本大震災の特別事業として「震つな+東海地震等を想定した広域ネットワーク委員会」が共同で日本財団ROADプロジェクトの助成を受け加盟団体の総合事務局を担った。直営事業としてROAD足湯隊の派遣、仮設支援連絡会の立ち上げ、現地会議を主催した。

また震つなを経由した日本財団ROADプロジェクトの国会への間接支援は、前期と同様に現地活動拠点「キャンプ八郎右衛門」の貸与、コピー機・印刷機、車両の貸与であった。

また会議や研修にはオールとちぎメンバーを積極的に派遣するようにした。内閣府「防災ボランティア会議」にも引き続き参加した。

## (8)「全国民間ボランティア・市民活動推進者企画戦略会議」の運営 (ボランティアとNPO)

に関する事業)

全国の市民活動やV活動の中間支援団体が一堂に会し、市民活動の推進方策、中間支援団体自身の経営について研鑽し話し合う、「第30回全国民間ボランティア・市民活動推進者企画戦略会議」を6月17-19日に実施した。企画・準備のため国会職員1人を派遣し、年度末までに3回の会議に参加した。国会が主宰で栃木・日光で実施した。2年連続の開催となった。

2012年6月16-17日	第30回民ボラ in 栃木・・・ボランティア・市民活動団体の心・技・体を学ぶ テーマ：震災がもたらしたものは？	参加者 45人
<b>(趣旨)</b> 東日本大震災から1年、昨年「民ボラ」では“民ボラバス”を走らせて、中間支援団体にとっての被災地支援活動を現場で考えました。今年は、それから1年間取り組んだ結果と現状、これからの、大テーマに据えて開催します。 また今年は民ボラ30回目ということで、少し先祖がえりを行うことにし、全体での討論や先輩から聞くことなど、懇談・懇親を新企画として取り入れました。温故知新——市民活動団体の心技体を身につけていきたいと思ひます。皆様の参加お待ちしております！		
<b>(スケジュール/内容)</b>		
1日目	20:00～ ④懇親会	
13:00～ ①ボランティア憲章	2日目	
15:15～ ②震災がもたらしたものⅠ	9:00～ ⑤震災がもたらしたものⅡ (エネルギー、地方での仕事)	
17:30～ ③創業者に聞く	11:00～ ⑥まとめ～クロージング	



## 全体会

### 1日目

#### ①【ボランティア憲章を考える ー日本人のボランティアリズムー】

東日本大震災で被災地に駆け付けた多くのボランティア。被災した人々を思うと、とても他人ごととは思えなくなる日本人のボランティアリズムとはいったいどこから来るのか。地域を支え合い、共に生きていこうとする力の根源を探ります。これからの社会を守っていく、日本らしいボランティアリズムを「憲章」として表現し、共有するため議論を進めていきたいと思ひます。

◇登壇者：岡本栄一さん…元大阪ボランティア協会理事長 西南女学院大学 教授

三輪真之さん…計画哲学研究所 所長 元早稲田大学 客員教授

◇運営：枝見太郎（富士福祉事業団）

#### ②【震災がもたらしたものは？Ⅰ ー支援の課題ー】

千葉県沿岸地域から北関東、東北と甚大な被害をもたらした大震災は、被災地域が広域に渡ることで各地域ごとで多様な団体・組織による手探りの応援体制づくりが進められました。ここで改めて見えてきたのは遠方支援の課題と各地域で初動体制をどう立ち上げたのかが検証できていないのではないか？ということでした。一口に被災地といっても多様で何をもって評価するのか評価軸も明確ではありません。

当初できなかったことが本当にそうだったのか？ もっとできたことがあったのではないのか？ 具体的にそれぞれの支援時期でどんな課題があったのか整理し、「地元主体」について議論していきたいと思ひます。また、多様な支援組織が入る中で、私たちのような民間の中間支援組織が現場に入ったことの意味や役割についても考えていきたいと思ひます。

◇発題：世田谷ボランティア協会、大阪ボランティア協会、東京ボランティア・市民活動センターでの事例を中心に。

◇運営：阿部紀夫（世田谷ボランティア協会）、岡村こず恵（大阪ボランティア協会）、竹内則夫（東京ボランティア・市民活動センター）

#### ③【創業者に聞く】

市民活動支援団体も時代とともにボランティア協会、NPOセンター、コミュニティビジネス・ソーシャルビジネス支援等々、さまざまな形態を取ってきています。しかし、時代や支援の形態が変わってもそこに通ずるミッションは変わるべきものではありません。

この企画は、今後の市民活動支援のかたちを考えるために、強固なミッションとパッションを持ち市民活動を創り・支えてきた“創業者”から、創業当時の思いや現在に至るプロセスをお話いただきながら、今後押さえるべき原点と哲学を知り、それぞれの支援展開を考えるきっかけとします。

今回は市民活動支援系団体創業者の第1世代(30年以上経過組)として静岡県ボランティア協会の小野田全宏さん、創業者第2世代(15年位経過組)として茨城NPOセンター・コモンズの横田能洋さんお二人にお話しいただきます。

◇話し手：小野田全宏さん(静岡県ボランティア協会常務理事)

横田能洋さん(茨城NPOセンター・コモンズ常務理事・事務局長)

◇運営：安久正倫 & 鳥羽茂

### 2日目

#### ④【震災がもたらしたものは？Ⅱ ーエネルギー、地方での仕事ー】

東日本大震災では、「エネルギー」問題と、田舎に「仕事がない」問題を浮き彫りにしました。これらは過去数十年前からの積み残しの課題でもあり、現在進行形で、これからどうするか、どうしていくのかを模索中の課題でもあります。

全体会IVでは、エネルギー問題と仕事がない(グローバリゼーションの課題)について、発明家・藤村靖之さんにお話を伺います。ご自身が主宰する非電化工房(非電化発明品・暮らしのテーマパーク)と、「田舎で仕事をつくる塾」のことなど、暮らし・しごと・エネルギー・発想法・事業化…など近未来の・待ったなしの・大きな課題を自分たちの手で解決していく方法を考えます。

◇話し手：藤村靖之さん(日本大学工学部教授、非電化工房代表、那須を希望の誓に！プロジェクト呼びかけ人代表)

◇運営：矢野正広

#### ⑤ 閉会【東日本大震災に関わった災害ボランティアが 日常のボランティアに根付くためには何が必要か】

東日本大震災より1年あまり。多くの災害ボランティアが現地で活動し、被災された方々の復旧・復興に関わってきました。その数、累計で95万人以上。(H24.3末現在、全社協発表)災害ボランティアとして関わった方が、地元地域に戻ったのちも引き続きボランティア活動を行っているケースは、少なくともありませんが、それほど多くもないはずで

被災地支援という、ある種ブーム的に関わった方々に、日常でもボランティア活動に関わってもらうために中間支援組織が果たす役割があるはずで

被災地支援という、ある種ブーム的に関わった方々に、日常でもボランティア活動に関わってもらうために中間支援組織が果たす役割があるはずで

◇コーディネーター：松山文記(静岡県ボランティア協会)

◇運営者：安久正倫(茨城NPOセンター・コモンズ) 鈴木知幸(山梨県ボランティア協会)

#### 募集要項

●2011年6月17日(金)22:00集合～19日(日)20:00(東京着の場合)

●対象：全国の民間ボランティア・市民活動推進団体の役職員・スタッフ、関心のある方、など40人

●参加費：3,000円+宿泊代10,000円(懇親会費込)

●宿泊先：花巻市内ホテル(調整中)

●持参物：□リュックサック、ディパックなど…活動中に両手が自由に使える。□衣類(作業着・着替え)…ケガ防止のため長袖・長ズボン □雨具(上下)…汚れても洗い流せる、防寒にもなる。□長靴か安全靴…鋭利な物を踏むかも。丈夫なものがよい。□軍手かゴム手袋…滑り止め付き・厚手の物がGood。□帽子…安全対策のため □マスク&ゴーグル(草刈り用)…ほこり、粉塵対策。□飲み物…現地購入可。

□常備薬 □健康保険証のコピー □筆記用具・メモ用紙

●締切：2011年6月11日(土)

■実行委員会参加団体：■とちぎボランティアネットワーク ■茨城NPOセンター・コモンズ ■富士福祉事業団 ■世田谷ボランティア協会 ■東京ボランティア・市民活動センター ■山梨県ボランティア協会 ■静岡県ボランティア協会 ■大阪ボランティア協会

9/28(金)民ボラ会議(矢野/大阪) 1/24民ボラ会議(矢野/東京)、 2/18(月)民ボラ会議(矢野/東京)

## 2. 事業報告【その他の事業】

今年度は実施しなかった。

## 3. 財政・組織運営

### (1) 会員

会員数が**661人**になり、昨年の679から18人減少した。会費の額は**200万円と前期より約50万円の減少**となった。会員数・会費とも減少したことは深刻に受け止めなければならない課題であろう。会費の改定があったことで相対的に会費分が寄付へと移行したとも思われるが、根本的には会員にとってのとちぎVネットが曖昧な存在であり、会に所属する積極的な意味を見いだせていないことの表れでもあると思う。

こうしたことへの対応として、今期は事務局(役員)と会員の関係性の改善を図った。懸案であった**中長期計画を策定**し、会員のボランティア活動の活性化方策を検討した結果、「**会員同士のたすけあいの活性化**」を目指すことを明確にした。その方策として手始めに会員との会う機会として「**会員のつどい**」を増やした。

会員自身が楽しみ、他の人も会員に誘うような構造にする努力が必要である。フードバンクや寄付ハイクなど、**ボランティアやファンドレイジングと連動した活動**にするように事業を変えている。

今後も**県内各地の会員が自分なりの関わりがもてるような会**のあり方、活動できるチャンス、**よりどころ**を作っていくようにしたい。

### (2) 寄付

**年間寄付額は 8,833,642 円**となった。前期の1800万円は災害寄付の大幅増があった。そのため3、4年前の水準と比較すると約440万円の増加であり、一般会計では約200万円の増加となった。

また、11月から1月末にかけて「**2012年度・とちぎVネット年末年始募金**」と街頭募金を実施し**2,261,910円**のご寄付をいただいた。事前に支援者の集いなどを実施したことや、支援者・会員とのコミュニケーションをとる職員数の増加もその理由であろう。昨年度より86万円の増となった。

前期からNPO法人会計基準を導入したため、ボランティアの活動時間を「ボランティアによる役務の提供の評価額」とし、最低賃金で換算して寄付として充当した。**ボランティア活動評価益は 3,905,300 円**となった。ボランティアの働きを表現できることで、市民参加の道筋が可視化されることになった。

12/15(土)街頭募金(参加15人)	12/16(日)街頭募金(参加21人)
---------------------	---------------------

現在の寄付金の項目は以下の通り。

		銀行引落し	オンライン寄付
①一般寄付	通常の寄付(災害救援バンダナの寄付も含む)	年1回と毎月引き落なsの方法が選べる。	ホームページからクレジット決済ができる
②年末年始募金	年末年始のキャンペーン時の寄付。12月1日～1月未まで		
③災害救援ボランティア基金	災害救援目的の寄付		
④サンクスVクラブ	Vネット“後援会”寄付金(後述)		
⑤若者未来基金	就労支援の奨励金やユースアドバイザーの運営経費になる若支援の寄付。		
⑥フードバンクサポーター	フードバンク宇都宮に対する寄付		
⑦とちぎコミュニティ基金	「とちコミ」のメイン寄付。認定NPO法人の利点を活かして、本会特別会計で預かっている		

### (3) 事業収入

本会の自主事業は収益性を目的に実施するものではなくミッション達成のための“こだわり事業”と言える。そのため事業単独での収益性が薄く、本会の自主事業にはなんらかの形で会費や寄付金での補填が必要とされている。

講師派遣事業は221万円の収入であり、一昨年と同じ水準に戻った。受託事業収入は新しい公共支援事業関係で1266万円であった。大きい委託事業中心だけの財源構成は非常に危険であり、その証拠に今年度は一転して超緊縮財政となってしまう、行政等からの委託事業もゼロである。自主財源確保が重要だが、寄付も含めて事業を行う必要もあり、安定的な委託事業も一定程度必要である。

中長期の発展計画に基づき事業収入構成のバランスを取ることが重要だとわかっているにもかかわらずマンパワー、事業、資金などの現実が追いつかないことを痛感した。

## 4. 組織運営

### (1) 会員総会

6月24日に定期会員総会を実施した。172人の出席（うち委任状152人）があり会員総会が成立した。議案のすべてが原案どおり可決成立した。

また本会員総会に先立って、6月19日に監事による業務監査・会計監査が実施され、会員総会で「適切に事業運営、適正に会計処理」されている旨の監査報告がなされた。

### (2) 理事会(役員会)

定期理事会を3回開催した。

11月24日の第2回理事会で理事長に二見令子、副理事長に中野謙作が選任された。

月日	議題/出席者
6/22 第1回理事会 (書面評決+常任理事会)	①事業報告・決算について ②会員種別の変更・会費の額の変更について ③若者支援事業の分離について ④理事の選任について 出席：栗山、徳山、増田、矢野、中野、塚本た、柴田、二見、大浦（委任状：大金、市川、前田、安藤）
11/24 第2回理事会	①半期事業報告・決算報告 ③理事長・副理事長の選任について 栗山、中野、徳山、市川、大浦、二見、矢野（委任状：増田、大金、塚本、柴田、趙、鈴木）
3/23 第3回理事会	①事業計画、予算について 二見、中野、大浦、山田、矢野、徳山、（委任状：増田、栗山、塚本、柴田、市川、山田、趙、鈴木、安藤）

### (3) 運営委員会

運営委員会を12回開催した。運営委員は役員、職員全員、運営ボランティアによって構成されている。出席は任意だが、職員は必ず出席することになっている。運営委員会活性化のため委員や理事を増やした。運営委員自体の役割もだんだんと見え始め、フードバンクや生活困窮者の支援、ファンディング等の具体的な活動ができるとともに個々の運営委員の役割が明確になってきた。運営委員の公募等も含め委員会の改革中である。

運営委員会とV情報を支える会(編集委員会)を同時に開催した。毎月第2火曜日19:30から開催している。

●運営委員会出席者13人：二見令子、中野健作、矢野正広、菊池順子、徳山篤、塚本明子、青木秀子、塚本竜也、君島福芳、石田昌義、安藤芳樹、岩井俊宗、大泉和也	9/11(火)運営委員会(塚本理事石田、二見理事、君嶋、大泉、塚本あ・矢野・菊池・青木・徳山・我妻) 10/9(火)運営委員会(塚本た、二見、安藤、石田、岩井、大泉V、中野・塚本あ・矢野・菊池・徳山・我妻) 11/13(火)年末年始募金DM企画、運営委員会(矢野、徳山、青木、
4/10 運営委員会(矢野、菊池、青木、君島、安藤、石田、塚本、石川、	

中野、大泉V) 5/8 運営委員会(矢野、菊池、塚本、中野、徳山、青木、小野、石田、石川) 6/12 運営委員会(安藤、塚本理事、矢野・徳山・菊池・青木・石川・我妻・塚本) 7/10(火)運営委員会(君島、安藤、石田、塚本た、中野・塚本あ・菊池・矢野・徳山・石川・我妻、オブザーバー高橋&吉野) 8/7(火)運営委員会(安藤、石田、大泉、中野、青木・矢野・徳山・塚本あ)	我妻、中野、塚本×2、石田、君嶋、二見、大泉) 12/11(火)運営委員会(君嶋、塚本た、大泉V、中野、我妻・矢野・菊池・徳山・青木・塚本あ) 1/8(火)運営委員会(安藤・君嶋・石田・岩井・塚本た理事・柴田理事・大泉V・矢野、徳山、青木、菊池、我妻、塚本あ、中野) 2/12(火)運営委員会(矢野、菊池、青木、塚本あ、安藤V、中野副理事長・塚本た理事) 3/12(火)運営委員会(二見理事長、塚本た理事、中野、矢野、徳山、塚本あ、我妻君嶋運営委、安藤運、岩井運)
---	--

#### (4) 会員の集い、支援者のつどい

会員活動の活性化を図るため県内を8地区に分け各地域ごとに「会員の集い」を行った。各地で会員どうしのつながりをつくること、事務局スタッフと知り合いのなり、活動に中身を知ってもらうことの2つが目的である。まけないぞうのお母さんをまねき「ミニまけないぞうキャラバン」を行ったり、V飯を食べるなどで和やかな懇親の場となった。

また「支援者の集い」は、主に会員外の寄付者に対して、本会の活動を知ってもらう機会として10月28日に実施した。職員が作った昼食を食べながら活動を知っていただく機会となった。

7/8(日)真岡・会員の集い(石田・他5人、矢野・徳山) 9/2(日)大田原・会員の集い(菊池・矢野・徳山・我妻・山田・塚本、二見理事、他8人、ぞうキャラバン：福島2人) 9/16(日)宇都宮・会員の集い(15人、スタッフ5人位・ぞうキャラバン：宮城2人) 9/30(日)小山・会員の集い(小山/徳山・我妻・青木・菊池、他15人)	10/14(日)佐野・会員の集い(矢野・菊池・徳山・安藤・安野、滝口&ぞうキャラバン：宮城3人) 10/21(日)日光・会員のつどい(徳山・矢野・菊池 他13人) 11/11(日)塩谷・会員の集い(徳山・青木・我妻他5人) 11/18(日)芳賀・会員の集い(菊池・青木・徳山・我妻・矢野・斎藤、大泉V、石田V、他真岡5人) 10/28(日)支援者の集い&ミニ「ぞう」キャラバン(参加40人)
--	---

#### (5) 役員、職員、Vネットサポーターの研修・懇親など

運営委員会が活性化してきたことで、以前からある研修システムが利用されだした。(交通費・参加費の7割を本会が負担)特に災害ボランティアオールとちぎでは、この研修規定を使って会議・研修に行っている。同様に職員・ボランティアを「東海地震の広域図上訓練」に参加させた。また、役員・職員・ボランティアの懇親を目的に1回の交流会(飲み会)を行った。

12/23 浄鏡寺掃除、12/28 忘年会(30人)
----------------------------

#### (6) サンクスVクラブ(後援会)

10周年を機会に、本会の後援会組織として「サンクスVクラブ」を結成し、Vネットへの**定期的な寄付(年間2万円)**をいただけること、クラブ員の親睦のため年に**2回の定例会(親睦会)**を行うことの2項目だけを条件にした「ゆるやかな」つながりが持てる会となっている。

今年度は春と秋におこなう定例会の開催方法を変更し「年間2万円以上の寄付」をいただいた方にも定例会参加を呼びかけ、いつもと違うメンバーもサンクスVクラブの定例会に参加するようになった。

<b>サンクスVクラブ 会則 2005年7月30日</b> (第1条) 本会はサンクスVクラブと称する。 (第2条) 本会の事務局を宇都宮市埴田2丁目5番1号とちぎボランティアネットワーク内に置く。 (第3条) 本会はとちぎボランティアネットワークの応援をすることを目的とする。 (第4条) 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。	1. 寄付に関する事 2. クラブ員の親睦に関する事 3. その他、目的達成に関する事。 (第5条) 本会は栃木県内のボランティア、NPO、企業及び本会の目的に賛同するものを会員とする。 (第6条) 本会に次の役員を置く。 [1] 代表 1名 [2] 副代表1名以上	[3] 会計 1名 (第7条) 本会の経費は寄付金、その他の収入をもってこれに当てる。 (第8条) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。  <b>役員名簿</b> 代表：高橋昭彦さん 副代表：高木敏江さん 会計&事務局：菊池順子
4/14(土)サンクスVクラブ(約20人) 11/24(土)サンクスVクラブ(約20人)		

#### (7) 委員会・チームの会議、ボランティアの活動日

①**ボラ情報を支える会(編集委員会)**…『ボラ情報』の編集・制作を行うためほぼ運営委員会の時に会議を行った。企画、取材、執筆を行う。また『ボラ情報』の製本・発送作業のため毎月末3日程度のボランティアによる作業日がある。

②**新聞切り抜き隊+しみん情報玉手箱**…毎週木曜日13時半から活動を行う。各自新聞の切り抜きを持ち寄り、ファイリング、要約、パソコンへ入力を行う。情報の収集・提供のためのボランティアチーム。

⑤**災害ボランティア オールとちぎ**…毎週水曜19:00から会議。200円で本会職員が作った**夕食(V飯)**を食べながら会議するのも魅力となっている。活動はほぼ毎週末の土日に行う。